

2025～	社会福祉原論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	元村 智明	

■授業のテーマ

社会福祉学批判—社会福祉学と社会福祉実践への根源的問いかけ

■授業の目的

社会福祉学を人間と社会を対象とする学問分野と指定し、社会福祉学研究及び実践に関する用語や術語の吟味・再考を目的とし、多角的かつ批判的に考察します。

■授業の到達目標

社会福祉学研究と社会福祉学実践の本質を問う観点（立場）について、各自がその仮説提示をすることができます。

■授業の概要

社会福祉学研究、及び社会福祉学実践の根源的課題について考究します。“社会福祉”は、歴史的には、（日本に限定しても）慈恵、慈悲、救済事業、慈善事業、感化救済事業、社会事業（経済保護事業を含む）、及び厚生事業、社会福祉事業等も名称変更を経ながら、現在の社会福祉の形成に至っています。その過程では、“社会福祉”は社会政策や社会保障、更には、公的扶助との概念が交錯、あるいは相互関連しながら、一見わかりやすく（例えば、人間の「幸せ」等という言説）、されど説明し難い概念と言えます。

さらに社会福祉士等の国家資格化とそれへの対応としての社会福祉教育（ソーシャルワーク教育）は、「社会福祉」事象に関する知識が標準化され、実習・演習の一定の質の向上があったと評価できます。しかし、国家試験が学部教育においては、結果として用語・術語の学習に留まる状況があり、研究面では、とりわけ本質的考究を目指す研究の低迷・停滞は当然の帰結といえるかもしれません。そのうえで、大学院における教育研究が設定されていると考えることができます。

この授業のオンデマンドにおいては、社会福祉学研究、及び福祉実践の基礎的な用語・術語の考察、つまり再考・再吟味を行い、各自がそれを再検討・批評する内容とします。

以上を通して各自の社会福祉観の仮説提示に繋がることが目的です。

■在宅学修

（１）レポート課題

課題 1	現代社会における社会福祉学研究の課題の一つを取り上げ、それを論評してください。	【提出期限】 ☒ 対面授業 1 週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	自らの実践、経験を含め、あわせて社会福祉学の先行研究を援用しながら、自らの社会福祉観の仮説を提示してください。	【提出期限】 ☐ 対面授業後 1 ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレ

ポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

現代社会の諸問題のうち何を社会福祉学の課題とするのか、否か、が社会福祉学を研究する上で、重要な分岐点となります。それはとても難しいことですが、社会福祉学の対象認識に関わる問題です。広く社会状況の変貌と諸科学の動向をも概観しながら、社会福祉学の対象を見つけてください。何を「社会福祉学の対象とするか?」、その問いを自らが見出し設定してください。ご自分の研究課題（修士論文のテーマ）とも関連しながらまとめることをお勧めします。

課題2 アドバイス

社会福祉学を学ぶために最も重要な社会福祉観を借りものではなく、自らのものにするために、ご自分の経験を大切にしながら、また、あわせて先行の理論研究も学びながら、できるだけご自分の言葉で述べてみてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉における原論の位置づけ	学問、科学、規範	社会福祉実践（ソーシャルワーク）と社会福祉学研究に「社会福祉原論」の必要性を考えてください。 ＊必読文献『社会福祉原論』『序にかえて』を精読ください。
2	社会福祉の発展	相互扶助・慈善事業・博愛事業・救済事業（救済事業）・保護事業・福祉国家	「社会福祉」の成立について社会福祉の論理展開としての全体像を捉えてください。 ＊必読文献「社会福祉の発展」を精読ください。
3	社会福祉固有の視点	視点の意味、社会生活の基本的要求（安定・保障・機会）、社会関係（個人・社会制度）	人が人に関わる専門職業である社会福祉が医療や教育と異なる基本的視点と基本的要求、そして社会関係を理解されてください。 ＊必読文献「社会福祉固有の視点」を精読ください。
4	社会福祉的援助の原理	視点と原理、社会性の原理、全体性の原理、主体性の原理、現実性の原理	生活支援を考える前提としてまずは社会福祉の視点と原理にもとづく4つの援助原理について理解されてください。 ＊必読文献「社会福祉的援助の原理」を精読ください。
5	社会福祉の対象	対象の意味、社会関係の不調和、社会関係の欠損、社会制度の欠陥	対象理解と対象者理解は異なります。いかに異なるかについて整理し、理解されたうえで社会福祉の対象について考えてみてください。 ＊必読文献「社会福祉の対象」を精読ください。
6	社会福祉の機能と分野	機能の意味、評価的機能、調整的機能、送致的機能、開発的機能、保護的機能、社会福祉の分野	社会福祉のもつ機能について医療や教育とは異なる点を理解し説明できるようにしてください。そのうえで社会福祉の分野の成立する意味について考えてください。 ＊必読文献「社会福祉の機能と分野」を精読ください。
7	社会福祉の方法	方法の意味、評価・調整・送致・開発・保護の方法、援助関係とコミュニケーション、方法の過程	社会福祉は、医療（医師患者）関係や教育関係とは異なる「援助関係」（専門的援助関係）が求められ、そのうえで方法の意味と過程について理解をされてください。 ＊必読文献「社会福祉の方法」を精読ください。
8	レポート課題1の作成（その1）	基本文献、基礎史資料、先行研究	レポート課題1の作成を目指して、基本文献及び基礎史資料を蒐集してください。
9	レポート課題1の作成（その2）	批評、推敲	レポート課題1の作成を目指して、渉猟・蒐集の文献史資料を批評してレポート作成を進めてください。
10	基本文献・史資料を読む①	精読・精査	各自の研究テーマ・研究課題にもとづく基本文献を渉猟・蒐集し精読されてください。
11	基本文献・史資料を読む②	精読・精査	渉猟・蒐集した基本文献を取り上げた理由を含めて文献批評してください。
12	先行研究を読む①	精読	各自の研究テーマ・研究課題にもとづく先行研究を渉猟・蒐集し精読されてください。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
13	先行研究を読む②	精読	渉猟・蒐集した先行研究を取り上げた理由を含めて先行研究を批評してください。
14	レポート課題2の作成(その1)	先行研究 省察 内省	レポート課題2の作成を目指して、基本文献及び先行研究を踏まえて立論してください。
15	レポート課題2の作成(その2)	推敲	レポート課題2の作成を目指して、推敲してください。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 4時間以上)

社会福祉学研究における、現時点での各自の研究テーマ・研究課題に関する基本文献及び先行研究を蒐集し、なぜそれを研究課題とされたかを今一度問い直されてみてください。スクーリングではA4用紙1枚程度にまとめて発表いただきます。提出は、対面スクーリング開始日までを目処とします。

対面授業時に、各自の設定した研究テーマと研究課題について報告し、全体討議を行います。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	「福祉」と「社会福祉」について考える	オンデマンド
2	愛他理念と福祉実践	オンデマンド
3	「社会福祉」認識の三段階論	オンデマンド
4	社会福祉の現代的形成	オンデマンド
5	戦後日本社会と社会福祉	オンデマンド
6	社会福祉学研究と研究方法論	オンデマンド
7	社会福祉の目的論	対面
8	社会福祉の対象論	対面
9	社会福祉の方法論	対面
10	社会福祉の学問論	対面

(3) スクーリング事後課題(学修時間目安: 4時間)

スクーリングで学ばれたことを機縁とされ、社会福祉原論に関する先行研究、並びに各自の人生経験(「福祉」や「社会福祉」に限定せず、仕事や日常生活全般を通して)等をも振り返りながら、自らの社会福祉観をまとめてみてください。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート(15%)、課題2レポート(15%)
- ・スクーリング(70%)

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

*1) 岡村重夫『社会福祉原論』(全国社会福祉協議会、1983年)は、“社会福祉原論”研究の古典的名著『全訂 社会福祉学(総論)』1968年を要約した完成版といえます。

この機会に、是非ともこの文献に当たってください。国家試験を前提としているいわゆる教科書と違い少し難読するかもしれませんが、それも学問的営為の一環とされていてはいかがでしょうか。優れた文献を読むことは、優れた論文を書く力を必ず育ててくれますので…。

その他参考文献は、オンデマンド時に配信しますレジュメ(拙稿)に記載しております。

2023～	ソーシャルワーク論			単位数	履修方法	配当学年
				2単位	SR	1・2年
				担当教員	田中 尚	

■授業のテーマ

ソーシャルワーカーの実践力の向上に必要とされるソーシャルワーク理論

■授業の目的

ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務・実践活動を結び付け、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにさせる。

■授業の到達目標

- ・ 3つの対象レベル（個人・組織・地域）において、ソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。
- ・ ソーシャルワークの理論モデルと結び付けて、自身の実践を振り返り・改善を行う。
- ・ 自らの実践を説明し、相手の理解が得られるよう、実践の言語化等に関連するスキル等を身につける。

■授業の概要

ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成は一体的であり、一般的な「福祉教育」、教育機関による専門教育、実践現場での研修やスーパービジョンなどは、理論と実践の統合のうえで、重層的に行われている。また、今日のわが国においては、ソーシャルワークへの期待が新たな分野にも広がりを見せており、それらの領域でのソーシャルワークの展開が求められている。本授業では、履修者それぞれが自身の関心分野・領域を定め、それについてのソーシャルワークの文献等の調査を行い、実践力の向上と人材育成に焦点を当て、その歴史的経緯を検討するなどを通して、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。さらに、ソーシャルワーク理論やその価値とするとところを確認し、実践上の現状とその課題を検討する。検討の枠組みとしては、ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成の実践に関連する知識・技術の基盤となる自我心理学理論、認知・行動理論やエコシステム論など、ソーシャルワークの主要理論の適用などを検討する。また、ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロの各視点からのソーシャルワーク実践の理解を深め、価値を生み出すキーワードとして、社会構成主義の観点を取り上げ、実践を批判的に分析することを行う。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	ソーシャルワーク実践理論の理解がソーシャルワーカーの実践力の向上にどのようにつながるかを踏まえて、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	ソーシャルワークの理論とその実践における課題、実践上のジレンマ（実践目標となる価値の実現と倫理的葛藤、ジレンマへの対応を含めて）について考察する。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリング

では「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（2）アドバイス



授業の到達目標、概要などを読んで、レポートで取り組む内容をできるだけ絞ることが大切です（広すぎると与えられた文字数では、教科書レベルの内容をまとめただけになってしまいます）。また、大学から送られてくる文献だけでは求められるレポートの質に到達することが困難であることもあり、自身の関心に従ってレポート課題（テーマ）に関する文献を探し出す努力が必要です。大学からの文献は、そのためのガイドとして考えてください。



目標は、ソーシャルワーカーの実践力の向上とその実践現場（環境）についての検討・分析力を高めることにあります。それを意識して、ソーシャルワークの価値・倫理・理論・知識・技術（方法）についての具体的な理解を目指してください。ソーシャルワーク実践における理論と実践の統合、そのうえでの多様な葛藤、ジレンマなどについて、実際に実践・事例を検討・分析することを念頭に選んでください。

（3）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容（・キーワード）	学びのポイント
1	ソーシャルワークおよび実践研究の基本的考え方	質的研究、量的研究、文献調査、参加観察、面接、アンケート、フィールドワーク、エスノグラフィ、研究倫理	ソーシャルワークにおける様々な研究方法があること、研究倫理の遵守が必須であることを理解する。社会福祉研究論文の幾つかを読み、研究論文の例として参考にする。
2	ソーシャルワークの全体像の理解：価値と倫理	ソーシャルワークにおける価値と倫理	ソーシャルワークが目指す価値とその実現を目指すうえでの実践上の倫理的課題について考察する。
3	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認①	エコシステム理論	生態学的視点とシステム論について調べる。
4	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認②	ジェネラリスト・アプローチの実践への適用	ミクロ・メゾ・マクロ、および各システムの相互作用について、実例を用いて考察する。
5	ソーシャルワーク実践理論の実践への適用①	認知・行動理論	認知・行動理論のソーシャルワークへの適用について理解する。
6	ソーシャルワーク実践理論の実践への適用②	精神分析・人間性心理学	精神分析的アプローチや人間性心理学のソーシャルワークへの適用について理解する。
7	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）①	大学等教育機関におけるソーシャルワーク教育	参考文献を中心に文献調査より、歴史、組織、カリキュラムなどについて調べる。
8	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）②	現場における育成・訓練	現場における学びの特徴、OJT、Off-JT、Self-Development、研修体制について調べる。
9	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）③	スーパービジョン	スーパービジョンの定義、種類、機能、プロセス、技術、倫理、体制について調べる。
10	ソーシャルワーカー育成の歴史・制度	資格制度、養成教育の歴史	わが国のソーシャルワークの資格制度、養成教育の現状と歴史を文献から学ぶ。
11	ソーシャルワーカーの実践力向上①	個人への介入	心理療法・カウンセリングの諸アプローチ・技術を意識する。
12	ソーシャルワーカーの実践力向上②	家族への介入	家族療法の視点からシステム論的思考のあり方を理解する。
13	ソーシャルワーカーの実践力向上③	組織への介入	社会構成主義の観点から現状を考察する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
14	ソーシャルワーカーの実践力向上④	制度への介入	ミクロ・メゾ・マクロの相互関連性を理解する。
15	ソーシャルワーカーの養成・育成上の課題	ソーシャルワーク価値を基盤にした養成教育	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、ソーシャルワークが目指す価値の実現に基づき批判的に考察する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：35時間以上)

- ・「在宅学修15のポイント」を包括的に学修し、2の「ソーシャルワークの全体像の理解：価値と倫理」について、自身で調べたことを1,600字程度にまとめる。(対面の演習の1週間前までに提出。)

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の把握と確認を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	ソーシャルワークの実践理論① 自我心理学のソーシャルワークへの適用を中心とした心理社会的アプローチについて、講義する。受講生は、心理社会的アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	ソーシャルワークの実践理論② ソーシャルワークの機能的アプローチの実践への適用について、講義する。受講生は、機能的アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	ソーシャルワークの実践理論③ ソーシャルワークの問題解決アプローチの実践への適用について、講義する。受講生は、問題解決アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	ソーシャルワークの実践理論④ 家族療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は、家族療法による家族システム理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワークの実践理論⑤ 認知療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は認知理論のソーシャルワーク実践について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
8	ソーシャルワークの実践理論⑥ 行動療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は行動理論のソーシャルワーク実践について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
9	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、課題中心アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
10	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、生態学的アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
11	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ジェネラリスト・アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
12	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ケアマネジメントによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
13	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ソーシャル・サポート・ネットワークによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

	授業の内容	授業の方法
14	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、エンパワメント・アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
15	まとめ ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、構成主義・ナラティブによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（25%）、課題2レポート（25%）
- ・スクーリング（50%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 久保紘章・副田あけみ（2005）『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店.
- 2) 日本社会福祉学会機関誌（最新版）『社会福祉学執筆要領「引用法」』（コピー）
- 3) 伊藤淑子（1996）『社会福祉職発達史研究：米英日三カ国比較による検討』ドメス出版.
- ※3) の図書は、新品在庫僅重版予定無しのため配本できませんが、非常に大切な内容ですので、中古を手する、または図書館で借用するなどしてお読みください。
- 4) 好井裕明（2006）『「当たり前」を疑う社会学』光文社新書.
- 5) Schon, D. (1984) The reflective practitioner: how porfessionals think in action, Basic Books. (=2001, 佐藤&秋田訳『専門家の知恵』ゆみる出版.)
- 6) 小池和夫編（2006）『プロフェッショナルの人材開発』ナカニシヤ出版.
- 7) Polanyi, Michael (1996) The tacit dimension. Routledge & Kegan Pau. (=1980. 佐藤敬三訳『暗黙知の次元』紀伊国屋書店.)
- 8) 金井壽宏（2012）『実践知』有斐閣.
- 9) Gergen, K. (1999) An invitation to social construction, Sage. (=2004, 東村知子訳『あなたへの構成主義』ナカニシヤ出版.)
- 10) Flick, Uwe (1995) Qualitative forschung. (=2002, 小田他訳『質的研究入門』春秋社.)
- 11) 平山尚他（1998）『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房.
- 12) 太田義弘（1992）『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』誠信書房.
- 13) 遊佐安一郎（1984）『家族療法入門：システムズ・アプローチの理論と実際』星和書店.
- 14) Toseland, R & Rivas, R. (1998) An introduction to group work parctice (=2003, 野村豊子監訳『グループワーク入門』中央法規出版.)
- 15) Obholzer, A. & Roterts V. Z, (2006) The unconscious at work: individual and organization stress inhte human services, (=2014, 武井麻子監訳『組織のストレスとコンサルテーション』金剛出版.)
- 16) 高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル』中央法規出版.
- 17) Goldstein & Noonan (1999) Short-term treatment and social work practice. Simon & Schuster, inc. (=2014, 福山和女他監訳『総合的短期型ソーシャルワーク』金剛出版.

2023～	ソーシャルワークリサーチ・研究方法論 (実践研究・実証研究の方法)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	大島 巖・狩野 俊介	

■授業のテーマ

受講者自らの実践経験を振り返り、実践の質を高めると共に実践現場からの発信力を向上させるために必要な科学的なソーシャルワーク研究方法論を学び、実践的な研究力と同時に実践力をも身につけます。

■授業の目的

通信制大学院の研究科専攻等の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、実践の質向上に資する実践的で科学的なソーシャルワーク研究方法論の知識と記述、価値観を学び、実践研究力と同時に実践力をも身につけることを目的にします。

■授業の到達目標

- ・実践家が自身の実践を振り返って実践の質を高め、実践現場からの発信を高める実践研究の取組みが、実践活動の一部であることを良く理解する。
- ・受講者自身の実践はもちろん、自職場で取り組む社会サービス（プログラム）、さらには自職場の諸活動をソーシャルワークリサーチの観点から振り返り、それぞれの実践や活動、プログラムの改善やより良い実践の創出に反映することができる。
- ・科学的なソーシャルワーク研究方法論を用いて、自職場での実践を振り返り、情報発信力を高めて、他の同様な課題を抱える実践現場の向上に資する情報発信ができるようになる。

■授業の概要

- ・各地の実践現場において、さらには社会全体において有用な実践と活動、社会プログラムを生み出すことに役立ち、インパクトを与え得る科学的なソーシャルワークリサーチ、研究方法論を身に付けるために、体系的なソーシャルワークリサーチ・実践研究方法論を教授します。
- ・「修士論文研究計画法概論」の授業を引継ぎ、本授業の中では、「概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」をさらに随時ブラッシュアップして、より実践に有用で、社会的なインパクトの高い研究計画になるようサポートします（なお科目等履修される方は、ご自身がお持ちになっている研究課題について「研究計画書」を作成の上、ご参加ください）。
- ・「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は「研究計画書」）は、授業期間中、3回にわたって行う同時双方向リモート授業の際に、それまでに行うオンデマンド授業の成果を踏まえて改訂をしていただきます。
- ・オンデマンド授業は、この授業のために独自に講師が作成した授業資料と、動画資料に基づいて行い、各回ともコメント票（ミニレポート）を提出していただきます。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。	【提出期限】 ☐ 対面(双方向) 授業1週間前まで ☐ 対面(双方向) 授業前日まで ☒ その他 (1回目対面(双方向) 授業1週間前まで)
課題 2 (事後課題)	「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の事後課題としての最終改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかについてもまとめてください。	【提出期限】 ☐ 対面(双方向) 授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題(予習・復習)がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



在宅学修15ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料をよく参照してください。また、スクーリング時の在宅学修15ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、次の「学位請求論文研究計画書」の改訂に反映させてください。



在宅学修15ポイントに対応したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料を十分に参照してください。また、スクーリング時の在宅学修15ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の事後課題に対応した研究計画書改訂版に反映させてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	実践現場に役立つ「実践研究」の進め方、まとめ方	実践研究はなぜ必要か、実践に有用な実践研究とは	実践研究はソーシャルワーク(SW)実践のプロセスと類似する。良い実践研究の条件とは。
2	科学的根拠に基づくソーシャルワーク実践とは	エビデンスに基づく実践(EBP)、実践現場での有用性	エビデンスに基づく社会的位置づけの確保、社会サービスの質向上、アカウンタビリティについて示す。
3	研究課題の定式化、研究上の問い(RQ)	研究課題定式化の方法、優れたRQの設定方法	プログラムスコープの活用、課題解決方法の創出、RQ整理票の活用について提示する。
4	実践研究の取り組みのプロセス～研究計画の設定に向けて～	実践研究に取り組むプロセス、文献研究・質的研究・量的研究・混合研究法の適用	どのようなプロセスで実践研究に取り組めば良いのか、文献研究・質的研究・量的研究・混合研究法の適用について示す。
5	ソーシャルワークリサーチにおける研究倫理	SW実践と研究における倫理、倫理的問題	SW研究の一般的なガイドライン、研究のメリットと不利益のバランス、研究活動における倫理的問題について提示する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
6	研究対象とサンプリング	量的研究・質的研究のサンプリング、母集団、標本	量的研究と質的研究を実施する上でのサンプリング方法について提示する。実践研究に関わる調査において計画的にサンプリングする重要性を理解する。
7	データ収集の方法、調査法の種類と方法	質問紙法、面接法、観察法、尺度、インタビューガイド	実践研究に関わる質問紙調査、評価調査などさまざまな調査の種類と実施方法を示す。また、RQ・研究目的に対応した定性的・定量的な指標、尺度、インタビューガイドを選択する方法を提示する。
8	実践および実践プログラムの評価の枠組み1～評価5階層と評価デザイン	プログラム評価、評価階層、評価デザイン	効果的な実践および実践プログラムを評価する枠組みの基礎となるプログラム評価の理論と方法を示す。評価の計画(評価デザイン)を設定する上でのプログラム評価の種類とその階層について提示する。
9	実践および実践プログラムの評価の枠組み2～形成的評価の評価デザイン	形成的評価、総括的評価、実践現場で取り込まれるその他のプログラム評価の方法	効果的な実践を設計・開発し、そのモデルを形成・改善し、科学的根拠(エビデンス)を生成する方法を提示する。またモデルを実施・普及するための方法についても提示する。
10	実践および実践プログラムの評価1～実験デザイン・準実験デザイン	ランダム化比較試験、準実験法に求められる適切な対照群の設定方法	科学的な介入研究の評価方法についての理解を深める。対照群設定方法についての留意点、限界などについて検討する。
11	実践および実践プログラムの評価2～シングルシステムデザイン	シングルシステムデザイン、ベースライン期、介入期	SW実践の現場で取り組みが容易な評価の方法として、シングルシステムデザインの種類・方法・実施上の留意点について示す。
12	実践における質的研究方法に関する概論	質的研究の特徴、サンプリング、調査方法	実践に関わる質的研究方法の概要として、質的研究の特徴、データ収集方法、調査技法、実施上の留意点について示す。
13	質的実践研究の種類と方法1	事例研究、オープンコーディング、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ など	実践に関わる質的研究の種類とその特徴について示す。研究目的やRQに基づいて研究方法を選択できることの重要性を確認する。
14	質的実践研究の種類と方法2	質的データ分析、複線径路等至性アプローチ、テキストマイニングなど	実践に関わる質的研究の種類とその特徴について示す。質的研究を実施する上での配慮点について提示する。
15	その他の量的実践研究の種類と、分析方法、配慮点、全体のまとめ	実践記録の活用と分析、二次データの活用と分析、ビッグデータの活用と分析	その他の量的実践研究の種類と配慮点をいくつかのアプローチごとに示す。また、これまでのまとめを行い、各自のRQの深化と研究計画の発展を確認する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 40時間以上)

3回行うリモートでのスクーリング第1回目の1週間前(6/22)までに、「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に視聴するオンデマンド動画をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、A4用紙2枚程度にまとめてください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修15ポイントの1-2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの3-4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの1-4に関する解説と質疑応答	リモート授業 (6/29(日)に1コマ開講・11:00～12:30)

	授業の内容	授業の方法
4	在宅学修15ポイントの5-8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
5	在宅学修15ポイントの9-10の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの5-11に関する解説と質疑応答	リモート授業 (8/10(日)に1コマ開講・11:00～12:30)
8	在宅学修15ポイントの12-13の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
9	在宅学修15ポイントの14-15の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの12-15に関する解説と質疑応答	リモート授業 (8/30(土)に1コマ開講・9:00～10:30)

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安: 30時間)

「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の最終版の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦勞したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかについてもまとめてください。①～③については、A4用紙2～3枚程度にまとめて提出をお願いします。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート (30%)、課題2レポート (30%)
- ・スクーリング (40%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 在宅学修15ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料
- 2) 平山尚ほか『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003
- 3) Rubin A & Babbie ER: Essential Research Methods for Social Work (Empowerment). Brooks/Cole Pub Co; 第4版, 2015
- 4) 福原俊一『リサーチ・クエスションの作り方』NPO 法人健康医療評価研究機構、2008
- 5) 松村真司、福原俊一『概念モデルをつくる』NPO 法人健康医療評価研究機構、2008
- 6) 古谷野亘、長田久雄『実証研究の手引き』ワールドプランニング、1992

2023～	社会福祉歴史研究・学説史研究の方法	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	元村 智明	

■授業のテーマ

社会福祉の歴史研究の視点と方法および学説史の検討

■授業の目的

社会福祉歴史研究および学説史研究における基礎的視点と方法への問いかけとその成果について再吟味を目的とします。

■授業の到達目標

- (1) 社会福祉の必要性や成立について、段階論・時期区分の視点と方法、近現代の法制度と福祉実践の観点から説明できる。
- (2) 社会福祉の歴史研究および学説史研究についての研究視点とその方法について説明できる。
- (3) 社会福祉の必要性や成立について、社会福祉の歴史分析と規範分析の統合的理解の必要性を理解できる。

■授業の概要

「社会福祉」の必要性には規範分析が求められ、また「社会福祉」の広がりには歴史分析を必要とする。その両者の関係は、社会科学としての史哲を意味する。それは「社会福祉」の成立について「なぜ、必要なのか」と原理論的に追究することと、他方で「どのように広がりをもせたのか」と歴史理論的に追究することを意味し、両者の統合的理解と分析を必要不可欠とする。

ここでは、第1に「社会福祉」を認識するための手がかりとして段階論に対する時期区分の考え方、第2に近現代国家の役割と機能の一つである救済貧に対する政策転換と、さらには個人の仕事であり自由主義的傾向を帯びる福祉実践と、その両者の地域的展開について考える。第3に、現代日本社会に成立する「社会福祉」について、戦前の「社会事業」、戦後の「社会福祉」がいかに成立し説明されたかについて追究する。

以上を通して、社会福祉の歴史研究と学問構想が、社会福祉の規範と歴史に関わる議論として各自の研究テーマや研究課題といかに関連するかについて考えていただく。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	社会福祉の歴史事象と個別研究テーマ・研究課題の関連性について論じてください。	【提出時期】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	社会福祉の学説と個別研究テーマ・研究課題の関連性について論じてください。	【提出時期】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレ

ポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

レポート課題1は、自らの研究テーマ・研究課題に即して、その関連する社会福祉の歴史事象に対して、理念・法制度・福祉実践等の観点からその概略をまとめてください。それは、自らの研究テーマと研究課題の明確化を前提としながら、その研究領域の歴史事象について、なぜ興味や関心があり、どのような歴史事象があったかについての事実確認、理念と法制度への理解、地域社会での政策展開を含む福祉実践の観点からの把握とその概略を述べてください。例えば、その取り上げる歴史事象における先駆的な実践事例や地域事例、代表的人物でも構いません。その際に、自らの研究テーマや研究課題に対して、歴史的社会的背景や一般的理解、既存の学術的背景や学問的見方について追究することを意識してください。

課題2 アドバイス

レポート課題2は、スクーリング後に自らの研究テーマ・研究課題に即して、その関連する歴史事象を踏まえながら、歴史事象としての対象規定、当時の学問構想のなかでの議論の位置づけについて意識してください。特に、現在の先行研究の到達点と残された研究課題、自らの研究視点と方法について説明してください。自らの研究テーマと研究課題のさらなる具体化と明確化を前提として、その研究対象の歴史事象としての実態、学術的「問い」、基本的研究視点、自明性への「問いかけ」を前提にして立論してみてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	イントロダクション「福祉の歴史」とは何か(序)	福祉、社会福祉、理念	「福祉」と「社会福祉」が異なることについての理解と現代社会に「社会福祉」が成立することの意味について歴史的に規範的に考える。
2	「社会福祉」認識のための三段階論と時期区分(Ⅰ-1、Ⅱ-1、Ⅲ-1)	時代区分、時期区分、段階論	現代社会に「社会福祉」が成立することの意味について、洋の東西の社会構造の歴史的差異のなかで人類史の時間軸において段階的に「社会福祉」を捉えることの意味について学ぶ。
3	前近代日本社会と福祉実践(Ⅰ-2、Ⅰ-3、Ⅰ-4)	慈恵、慈悲、隣保相扶	前近代日本社会における福祉実践について政治的理念の「慈恵」と仏教的理念の「慈悲」、地域社会の「隣保相扶」の観点から生活支援の問題について社会構造から学ぶ。
4	近代日本社会と福祉実践(Ⅱ-2、Ⅱ-5、Ⅱ-6)	一般救護、特別救護、慈善事業	近代国家としての役割と機能に基づく救貧と地域社会における「一般救護」と「特別救護」の関係、独立した個人の役割としての「慈善事業」とその社会化・組織化・専門化、その両者の関係と限界について学ぶ。
5	現代日本の戦前社会と福祉実践(Ⅱ-7、Ⅲ-4、Ⅲ-6、Ⅲ-8)	感化救済事業、地方改良事業、経済保護事業、農村社会事業、戦時厚生事業	20世紀前半の現代国家としての役割と機能に基づく「防貧」とその政策展開となる「感化救済事業」「地方改良事業」と社会事業の中心政策としての経済保護事業と農村社会事業、戦時下の厚生事業について学ぶ。
6	現代日本の戦後社会と福祉実践(Ⅲ-9、Ⅲ-10、Ⅲ-11)	戦後福祉改革、福祉国家、日本型福祉社会	20世紀後半の現代国家としての役割と機能に基づく政策構想として、戦後改革と社会福祉、高度成長と社会福祉、低成長下と社会福祉の関連性について学ぶ。
7	明治維新と恤救規則(Ⅱ-2)	恤救規則、制限救助主義救貧法	明治維新の持つ意味と日本版救貧法である恤救規則が制限救助主義救貧法であることの意味について学ぶ。
8	救貧法制構想と特別救護立法(Ⅱ-5)	義務救助主義救貧法、特別救護立法	恤救規則の狭隘性のなかで構想される窮民救助法案、恤救法案・救貧税法案、窮民救済法案、救貧法案の未成立と特別救護立法の成立の意味について学ぶ。
9	戦時体制と救護五法(Ⅲ-5、Ⅲ-6、Ⅲ-8)	救護法、軍事扶助法、母子保護法、医療保護法、戦時災害保護法	戦時体制と一般救護である救護法に対する特別救護としての軍事扶助法、母子保護法、医療保護法、戦時災害保護法についてその法令と実態から権利性の未成熟や弱さについて学ぶ。
10	戦後社会と社会福祉(Ⅲ-6、Ⅲ-9)	社会事業法、社会福祉事業法、社会福祉法	戦後改革と福祉の関係性について戦前の社会事業法と戦後の社会福祉事業法、現行の社会福祉法について学ぶ。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
11	戦前の社会事業学構想と福祉実践 (Ⅲ-2、Ⅲ-3、Ⅲ-4)	「社会事業」認識、社会事業研究、社会事業学、厚生学、社会福祉研究	戦前日本社会の法学者や社会政策学者の社会事業への認識と社会事業学者の学問構想に学びながら福祉実践の取り組みについて学ぶ。
12	戦前の社会事業史論と福祉実践 (Ⅲ-8)	社会事業史、日本佛教社会事業史、日本基督教社会事業史	戦前日本社会における社会事業の必要性について歴史的視点からいかに議論されたかについて学びながら、福祉実践の取り組みについて人物と地域社会での展開について学ぶ。
13	戦後の社会事業史研究と方法論	現代社会事業史研究、地域社会福祉史研究	社会福祉の歴史研究の方法論として社会事業史研究を体系化した吉田久一と地域社会福祉史研究を展開した田代国次郎の視点と方法を学ぶ。
14	戦後の社会福祉の歴史理論と方法論	救貧法、福祉国家、段階論	社会福祉を通史的に段階論として捉え、西洋史を基礎とする高島進と日本史を基礎とする池田敬正の両者の歴史研究の視点と方法を学びます。
15	「社会福祉」の成立と学問としての社会福祉	社会科学、規範分析、歴史分析	「社会福祉」を学問として、社会科学として議論するための規範分析と歴史分析の統合的理解とその必要性について考えてみます。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：50時間以上)

課題1レポートの作成にあたり、指定教科書の必読を求めます。23の章構成のため、1つの章の精読を通して筆者の歴史理論の前提となる歴史事象を理解し、基本用語の再確認や要点整理に取り組んでください。1章の精読では、少なくとも2時間程度の学習時間を必要とします。そのため毎週、指定教科書の一定分量の精読を通して内容理解を求めます。

その上でレポート課題の「課題1」に取り組んで、対面授業の1週間前に事前提出ください。スクーリングでは、A4用紙1枚程度にまとめて、発表いただきます。提出は、対面スクーリング開始日までを目途とします(学習時間の目安：6～8時間)。そのための指定教科書の精読と基本用語の再確認と要点整理が重要です(学習時間の目安：45～50時間)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	「福祉の歴史」とは何か、「福祉」と「社会福祉」の差異について理念問題として考えます。	オンデマンド
2	現代社会に成立する「社会福祉」を認識するための三段階論と時期区分の考え方について概説します。	オンデマンド
3	前近代日本社会の社会構造と福祉実践の関連性について、政治的「慈恵」と宗教的「慈悲」、地域社会のお互いの助け合いの「隣保相扶」から考えます。	オンデマンド
4	近代日本社会と福祉実践について、近代国家としての役割としての「救貧」について一般救護と特別救護の関係、そして個人の仕事である慈善事業について両者の関係と限界を概説します。	オンデマンド
5	現代日本の戦前社会と福祉実践について、国家が国民生活に関与する政策展開としての感化救済事業と地方改良事業、社会事業の中心事業となる経済保護事業、農村社会事業、戦時厚生事業について概説します。	オンデマンド
6	現代日本の戦後社会と福祉実践について、戦後改革と社会福祉、高度成長と社会福祉、低成長下の社会福祉について概説します。	オンデマンド
7	戦前の社会事業について学問構想と福祉実践について、法学者や社会政策学者の議論、社会事業学者の議論を取り上げて考えてみます。	対面
8	戦前の社会事業史がいかに議論され、構想されたかについて戦前の社会福祉の歴史研究の意義と限界について考えてみます。	対面
9	戦後の社会事業史研究と方法論について、全体史の構想と地域史の構想の両者について考えてみます。	対面

	授業の内容	授業の方法
10	戦後の社会福祉の歴史理論と方法について、通史を構想し西洋史を基礎とする考え方と日本史を基礎とする考え方について考えてみます。	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：20時間)

スクーリング後に、自ら取り上げる研究テーマ・研究課題は歴史事象の何とつながっているかについて十分な歴史認識を踏まえて、さらなる研究史資料の蒐集とその読解、さらには先行研究の渉猟をもとに、課題レポートの作成に取り組んでいただきます。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート (20%)、課題2レポート (20%)
- ・スクーリング (参加度60%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 池田敬正著 『日本における社会福祉のあゆみ』 法律文化社、1994年
- 2) 池田敬正著 『日本社会福祉史』 法律文化社、1986年
- 3) 吉田久一著 『改訂増補版 現代社会事業史研究』 川島書店、1990年
- 4) 大谷栄一・大友昌子・永岡正己・長谷川匡俊・林淳 『吉田久一とその時代—仏教史と社会事業史の探求』 法蔵館、2021年
- 5) 日本社会事業大学救貧制度研究会編著 『日本の救貧制度』 勁草書房、1960年
- 6) 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編著 『戦後社会福祉の歴史研究と方法—継承・展開・創造— 第1巻 思想・海外』 近現代資料刊行会、2022年
- 7) 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編著 『戦後社会福祉の歴史研究と方法—継承・展開・創造— 第2巻 理論・総括』 近現代資料刊行会、2022年

2023～	情報解析方法論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	佐藤 善久	

■授業のテーマ

量的研究に関する進め方と情報解析の方法と意義の理解

■授業の目的

現代社会における課題解決の手法の1つとして、量的情報の収集の仕方や得た情報を分析する方法を学ぶ。具体的には、量的研究の流れと研究や統計解析等で用いられる用語を理解するとともに、統計解析ソフトを活用し、情報解析ができることを目的とします。さらには自己の研究課題にも役立てることが望まれます。

■授業の到達目標

- ①量的研究の流れを説明できる
- ②研究および情報解析で用いられる用語を説明できる
- ③量的研究で統計解析の手法を選択できる
- ④統計解析ソフトを用いて、量的データを分析できる
- (⑤授業で学んだ手法を自己の研究課題で活用できる)

■授業の概要

研究法で学んだ知識をもとに質的研究法と比較しつつ量的研究法とは何かについて学び、さらに量的研究法で使用する用語や概念に関して、研究のモデル、研究計画の仕方、データのまとめ方、記述統計と推測統計の理解とその意義を学ぶ機会とします。授業内では上記の基本的な量的研究に関わる用語を説明し、演習を通じて統計解析における必要な知識の基盤作りを行います。また、実際のデータをもとにエクセルや統計解析ソフト SPSS を使用して統計解析（記述統計と推測統計）の方法について演習を通して学び、その結果の解釈についても理解する機会を設けます。情報の解析では、各自が所有する PC の表計算ソフト Excel を利用するとともに、大学で準備する統計ソフト SPSS を活用して解析法を学びますので該当授業時には PC を持参してください。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	在宅学修15のポイントについて、レポートにまとめてください。 (レポートは原則として論述式、解答の長さは4,000字程度を必須としています。15のポイントに分けて記載しても構いません。)	【提出時期】 ☐ 対面授業1週間前まで ☒ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	対面授業の中でデータを配布し、演習課題を提示します。 (レポートは原則として論述式、解答の長さは4,000字程度を必須としています。)	【提出時期】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項

の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題 1 アドバイス

在宅学修15のポイントについて、レポートにまとめてください。対面授業最初（スクーリング5）の時間に確認作業を行います。スクーリング開始までにまとめられなくともオンデマンドで実施する4回の授業の中でも一部説明していますのでその部分を参考にさせていただいても構いません。

統計学を始めて学ぶ人は、初めて聞く言葉が多いかもしれません。課題遂行には、下記の教科書を参考にしながら、web上で用語を検索した、理解しやすく説明するYouTubeなどもありますので確認しながら進めてください。

課題 2 アドバイス

対面授業の中でデータを配布し、演習課題を提示します。ExcelとSPSSソフトを使用して統計処理の演習課題を行いますので、対面授業の際には各自ノートPCを持参してください。なお持参することが難しい時には事前に申し出てください。また、当日資料も配布し一緒に演習を行います。Excelに自信がない人は書籍を購入しても良いかと思います。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	統計手法の種類と適用について	記述統計と推計統計(推測統計)の違い	記述統計と推測統計の違いについて説明できるようにしましょう。どのような時に用いるか使い分けを説明できるようにしてください。
2	データの水準	量的研究におけるデータの種類の理解(水準)	名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の違いを理解し、その違いを説明しましょう。また、各データの種類の例示をしましょう。
3	尺度の信頼性と妥当性	データ(尺度)の信頼性と妥当性とは	尺度の信頼性と妥当性について説明し、具体的に例示しましょう。
4	量的研究のモデル	量的研究における定数と従属変数・独立変数・外生変数の理解	量的研究における定数と従属変数・独立変数・外生変数の違いを説明しましょう。その変数を利用して研究モデルを作ってみましょう。
5	記述統計データの表現の仕方と読み方1	代表値とは	以下の用語について説明しましょう。最小値、最大値、範囲、代表値(平均値(トリム平均値)、中央値、最頻値の違い)とは何か説明しましょう。
6	記述統計データの表現の仕方と読み方2	散布度とは	以下の用語について説明しましょう。散布度(標準偏差、分散、四分位範囲、偏差値)とは何か？
7	パラメトリックなデータとは	パラメトリックなデータの特徴	パラメトリックなデータとはどのような特徴があるか説明しましょう。
8	ノンパラメトリックなデータとは	ノンパラメトリックなデータの特徴	ノンパラメトリックなデータを理解し、パラメトリックなデータとの違いを説明しましょう。
9	群間比較とは	統計学で群間比較をする意味	群間比較することの意味について説明しましょう。また、自己の周囲にあるデータで群間比較可能なデータを例示しましょう。
10	比較する群の数と対応の有無	群間比較する際の群の数と対応の有無	2群と3群以上のデータの比較を例示しましょう。また群間比較において対応の有無とはどのようなことを意味するか説明し、例示しましょう。
11	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定	群間比較における検定の選択	群間比較においてどのようにパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を使い分けるか説明しましょう。
12	関係の強さ(相関)	関係の強さを表現する相関とは	相関が高いとはどのようなことか？また、正の相関負の相関とはどのような違いがあるか説明しましょう。
13	データの水準と関係の深さの検討	スピアマン順位相関とピアソン積率相関とは	スピアマン順位相関とピアソン積率相関はどのような違いがあるか、データの水準を使って説明しましょう。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
14	変数の予測(回帰分析)	一つの変数から他の変数を予測することとは	運動の量と体重変化のように一つのデータから他の変数を予測するとはどのような意味があるか、またその例を上げましょう。
15	データの水準と統計手法の選択	データの種類による統計手法の選択方法とは	様々なデータの水準と目的(比較・関係の強さ・予測)に応じて統計手法を選択できるようにしましょう。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 50時間以上)

在宅学修15のポイントについて事前課題をスクーリング5回目の対面授業までにまとめてメールで提出してください。また、スクーリング5の授業の際に理解の状況を確認しますので、印刷して持参してください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	オリエンテーション及び量的研究とは(概論)	オンデマンド
2	研究のタイプとデータの種類(水準)について	オンデマンド
3	研究仮説及びモデルと研究に関連する用語の理解	オンデマンド
4	量的研究における統計解析(記述統計と推測統計)の選択方法	オンデマンド
5	研究モデルの作成と研究計画(情報解析を含む)演習	対面
6	量的データの情報解析におけるExcelの活用	対面
7	Excelを用いた情報解析演習	対面
8	量的データの情報解析におけるSPSSの活用	対面
9	SPSSを用いた情報解析演習	対面
10	まとめ(課題2の説明と量的研究についてのまとめ)	対面

(3) スクーリング事後課題(学修時間目安: 20時間)

- ・レポート課題の「課題2」に相当。
- ・レポートは原則として論述式、解答の長さは4,000字程度を必須としています。

■評価の方法・基準

在宅学修15のポイントについての事前課題(50%)およびスクーリング後の事後課題(50%)によって評価を行います。スクーリング前のオンデマンド動画に関しても視聴状況を確認しますので必ず視聴してください。

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 菅民郎監修、志賀保夫・姫野尚子著『使える51統計手法』オーム社、2019年 ←入門書
- 2) 阿部真人著『統計学入門 仮説検定から統計モデリングまで重要トピックを完全網羅』ソシム株式会社、2021年 ←入門から中級編(教科書より少し詳しく研究モデルまで記載)
- 3) 栗原伸一、丸山敦史共著『統計学図鑑』オーム社、2017年 ←図説で入門書(見やすさで選択する人は図解が多いので理解しやすい書籍)
- 4) 篠原拓也著『できる人は統計思考で判断する』三笠書房、2018年 ←統計学がどのように利用されているか(読み物)
- 5) 西内啓著『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社、2013年 ←統計学の世の中でどのように活用されているか(読み物)

2023～	質的研究方法論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	塩野 悦子	

■授業のテーマ

質的研究方法の基本を学び、研究対応力を磨く

■授業の目的

総合福祉学の専門分野における対象者の理解を深め、より適切な支援方法を探索するために、質的研究方法の基本と実際を理解する。

■授業の到達目標

- ・質的研究方法の特徴を説明できる。
- ・質的研究の主な方法論の特徴と手順の概要を説明できる。
- ・質的研究のプロセスを説明できる。
- ・質的研究のデータ収集と分析方法を説明でき、事例などを用いて実践できる。
- ・質的研究のクリティーク方法と論文のまとめ方について説明できる。

■授業の概要

本講義では質的研究の基礎と実際について教授する。質的研究方法の意義や特徴を量的研究との比較などから学び、質的研究を行うプロセスについて理解する。特に質的研究方法を用いる上で研究の問いが重要であることを学修する。また、質的研究の主な方法論を中心に、理論的基盤やデータ収集ならびに分析方法について理解する。面接法などの主なデータ収集方法、データの分析の演習を通してより理解を深める。これらを通して専門的分野における対象者の理解を深め、自ら研究活動を行う能力を修得する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	①文献2)第2章と第3章の要約と感想。 ②現時点での「研究の問い」を3点あげる。	【提出期限】 ☐ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☒ その他 (オンデマンド授業1週間前まで)
課題 2 (事後課題)	①質的研究論文(1件)クリティーク ②自身のフィールドにおける質的研究の活かし方	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☐ 受講年度の最終レポート受付日まで ☒ その他 (対面授業後1週間後まで)

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題(予習・復習)がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

- ① 質的研究を学ぶ前の立場から気楽にお読みください。要約は章ごとに簡潔にまとめ、感想はまとめて記載してください。質的研究（社会学的フィールドワーク）のあり方や意義について考える導入の機会となります。
- ② 「研究の問い」 research question を考える練習です。3つ考えてみてください。主語と述語が含まれる疑問形で表現します。自身のフィールドで気になっていることや修士論文で取り上げたいことなどから考えてみてください。文献1）を参照のこと。

課題2 アドバイス

- ① 質的研究方法は、実際の論文を読むことによって、理解が深まります。ぜひ、関心のある質的研究方法を用いた文献を選び、よく読んで、クリティックをしてみましょう。文献の選び方やクリティック方法は講義で紹介します。
- ② 質的研究を学んだことによって何が見えるようになったでしょうか？ そんな視点から、質的研究が自身のフィールドでどのように活かされるかを考えてみてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	質的研究方法の特徴	質的研究・量的研究	質的研究の特徴を量的研究との比較などから学ぶ。
2	質的研究の意義	社会学的調査・フィールドワーク	文献2) 第2章と第3章を読み、質的研究のあり方や意義について考える。
3	質的研究の主な方法論①	各方法の特徴・背景	質的研究方法の種類とその違いを学ぶ。
4	質的研究の主な方法論②	各方法の概要と手順	質的研究の各方法の概要と手順を学ぶ。 (質的記述的研究・内容分析・事例研究グラウンデッドセオリー・エスノグラフィー・現象学的アプローチなど)
5	質的研究の主な方法論③	各方法を用いた文献	質的研究の各方法の特徴を文献より学ぶ。(各方法名で検索してみる)
6	質的研究の問い	研究の問い・リサーチクエスト	自身のフィールドでの疑問から、質的研究にける「研究の問い」の重要性を学ぶ。
7	質的研究方法のプロセス	研究計画書作成	質的研究の一連のプロセスを学ぶ。
8	データ収集方法	面接法・観察法・インタビューガイドの作成	データ収集方法の種類と概要、インタビューガイドの意義と方法を学ぶ。
9	データ分析方法	コーディング・カテゴリー化	質的研究のデータ分析方法について学ぶ。また、事例より分析の実際を学ぶ。
10	質的研究の評価基準	信頼性・妥当性	質的研究の質を確保する方法を学ぶ。
11	質的研究における倫理的配慮	倫理的・同意書・説明書	質的研究における倫理的配慮や倫理申請方法を学ぶ。
12	【演習】①面接の実施	面接の練習	身近なテーマを設定し、対象者に実際に面接する。(許可をとって録音)
13	【演習】②データ分析	逐語録作成・コーディング・カテゴリー化	面接後、逐語録を作成し、データ分析を実践する。
14	【演習】③結果の発表	カテゴリー・関連性	データ分析結果を発表する。
15	質的研究の読み方・まとめ方	質的研究のクリティック・論文のまとめ方	質的研究論文のクリティック方法、論文のまとめ方を学ぶ。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 6~10時間)

レポート課題の「課題1」に相当。

- ① 文献2) 第2章「はいりこむ」と、第3章「あるものになる」の要約と感想。
- ② 現時点での「研究の問い」を3点あげる。

- ・ 字数：①②合わせて4,000字程度
- ・ 提出期限：オンデマンドスクーリング1週間前まで

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	質的研究の特徴	オンデマンド
2	質的研究の方法論(1) グラウンデッドセオリー・内容分析など	オンデマンド
3	質的研究の方法論(2) エスノグラフィー・現象学アプローチなど	オンデマンド
4	質的研究のプロセス(研究の問い、研究計画書作成など)	オンデマンド
5	質的研究のデータ収集方法(面接法・観察法、グループインタビュー)	オンデマンド
6	質的研究の倫理的配慮・質的研究の評価基準	オンデマンド
7	質的研究の分析方法(事例を用いての実践)・演習説明	対面
8	【演習】データ収集の実施(仮テーマ設定・面接の練習・逐語録作成など)	対面
9	【演習】データ分析とまとめ(発表)	対面
10	質的研究の論文のクリティーク・論文のまとめ方	対面

(3) スクーリング事後課題(学修時間目安：6～10時間)

レポート課題の「課題2」に相当。

- ①質的研究論文を1件選択し、a テーマと選択理由を述べ、b その文献のクリティークをまとめなさい。
- ②自身のフィールドにおいて、質的研究がどのように活かされるか、本科目の学びを含めて、自身の考えをまとめなさい。

- ・ 字数：①②合わせて4,000字程度
- ・ 提出期限：対面スクーリング終了1週間後まで

■評価の方法・基準

- ・ 課題1 レポート (20%)、課題2 レポート (20%)
- ・ スクーリング (参加度60%)

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) グレグ美鈴、麻原きよみ、横山美江編著『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版 看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版、2016
- *2) 好井裕明著『あたりまえを疑う社会学～質的調査のセンス～』光文社新書、2008

2023～	福祉プログラム開発と評価 ～サービス改善のための実践評価と実践研究の方法～			単位数	履修方法	配当学年
				2単位	SR	1・2年
				担当教員	大島 巖	

■授業のテーマ

実践現場の課題を見直し、課題解決のために取り組む支援サービスを、より質の高い効果的なものへと改善するために用いる「(福祉) プログラム開発と評価」の方法を習得し、実践現場に適用する。

■授業の目的

- ・受講者が関わる（あるいは関心をもつ）実践の課題に対して、実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「(福祉) プログラム開発と評価」の方法を用いて客観的に記述・言語化し、検証するための方法を身に付ける。
- ・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生み出し、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な「プログラム開発と評価」の科学的な方法論を学び、実践の現場に適用させる。

■授業の到達目標

- ・受講者が関わる実践現場の課題に対して、自身の実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「プログラム開発と評価」の観点から整理して記述し、理論的に説明できる。
- ・受講者自身の実践について、科学的な「プログラム開発と評価」の方法を用いて評価し、評価から得た知見や示唆を説得力ある方法で発表できる。
- ・「プログラム開発と評価」の具体的な方法について、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについて理解し、説明できる。

■授業の概要

- ・【1-1】社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の意義と方法論を「プログラム開発と評価」の観点から概説する。
- ・【1-2】スクーリングで前項の質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題を共有し、「プログラム開発と評価」の観点から整理し、検討するグループワークを行う。
- ・【2-1】「プログラム開発と評価」の具体的な方法を、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについてテキスト教材とオンデマンド授業で概説する。同時に①～⑤を、《1》制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発、《2》成果の上がない制度モデルの改善・再設計、《3》効果モデルの形成・改善、エビデンス生成、《4》海外で効果立証された EBP プログラムの導入という課題に適用させる方法を提示する。
- ・【2-2】スクーリングで質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題解決にどのように活用すれば良いのか、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて整理する。
- ・【3】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。スクーリングでは、その研究計画・評価計画を全体発表・共有して、意見交換する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4用紙2～3枚にまとめて、事前提出をする(11/29迄)。	【提出期限】 ☐ 対面(双方向) 授業1週間前まで ☐ 対面(双方向) 授業前日まで ☒ その他 (11/29迄)
課題 2 (事後課題)	受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いて作成する「事業企画書」「評価計画書」、ならびに「事業企画」に関わる評価ツールを最後のスクーリングに合わせて提出し、参加者に報告して質疑応答する。提出物は意見交換の結果を踏まえて改訂して提出する。	【提出期限】 ☐ 対面(双方向) 授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題(予習・復習)がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



動画教材やテキストでは、「プログラム開発と評価」を用いて「効果モデル」を設計・開発、形成・改善する方法を、評価ツール《1》～《6》の開発と活用法の観点から概説します。その方法を実践現場にどのように当てはめれば良いかを考えてください。



動画教材やスクーリングにおいて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いた「事業企画書」「評価計画・研究計画書」を、実践に基づいて作成する方法をお伝えし、スクーリングのグループワークで事前検討することにします。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論1: プログラム開発と評価とは	定義、二つの目的・アプローチ、評価者の立ち位置	授業の概要【1-1】福祉プログラム開発と評価の方法の概説を行う
2	総論2: 評価の5階層	社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の方法	同上【1-1】社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の具体的方法を評価5階層の視点から概説
3	総論3: プログラム理論とロジックモデル	プログラムゴールとインパクト理論、プロセス理論	同上【1-1】社会課題解決の方法である社会プログラムの設計図であるプログラム理論・ロジックモデルについて概説
4	各論1-1: 制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発(その1)	制度の狭間問題のニーズ把握、背景要因、ターゲット集団、対応の好事例分析	同上【2-1】《1》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する
5	各論1-2: 同上(その2)	プログラムスコープの構造、分析の方法、プログラム理論構築の方法	同上【2-2】《1》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法を学ぶ
6	各論1-3: 同上(その3)	各実践現場におけるプログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《1》各実践現場の課題解決の方法に対して、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ
7	各論2-1: 成果の上がらない制度モデルの改善・再設計(その1)	成果の上がらない制度モデルの課題分析、ニーズ把握、背景分析、ターゲット集団分析、対応の好事例分析	同上【2-1】《2》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
8	各論2-2: 同上 (その2)	各実践現場におけるプログラムスコープ分析、プログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《2》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ
9	各論3-1: 導入した効果モデルの形成・改善、エビデンス生成 (その1)	導入した効果モデルの形成的評価、効果的援助要素、フィデリティ尺度、アウトカム評価との相関分析	同上【2-1】《3》導入した効果モデルのプロセス評価、アウトカム評価の活用方法を概説する
10	各論3-2: 同上 (その2)	各実践現場の課題に対応した効果モデル、効果的援助要素、フィデリティ尺度の構築、モニタリング評価の方法	同上【2-2】《3》導入した効果モデルの形成・改善評価の方法、エビデンス生成方法を、各実践現場の実情に合わせて検討する
11	各論4: 海外のEBPプログラムの導入とインパクト評価、効率性評価、実施・普及評価	導入した海外のEBPプログラムの技術移転の方法、アウトカム・インパクト評価、フィデリティ評価の方法	同上【2-1】《2-2】《4》導入した海外のEBPプログラムの技術移転、実装の方法を概説する
12	各論5-1: 各実践現場における評価計画の策定 (その1)	評価の計画、データの収集・分析の方法、質的データの分析方法、量的データの分析方法	同上【3】質的・量的データの収集・分析の方法を含めた評価計画の策定方法を概説する
13	各論5-2: 同上 (その2)	各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法	同上【3】各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法を学ぶ
14	成果の報告1: 研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告 (その1)	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う
15	成果の報告2: 研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告 (その2)	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安: 40時間以上)

社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4用紙2～3枚にまとめて、第2回リモートスクーリング(12/7)1週間前までに、事前提出をする(11/29迄)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修15ポイントの1の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの3の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修15ポイントの1-3に関する解説と質疑応答	リモート授業 (11/1(土)に1コマ(9:00～10:30)開講)
5	在宅学修15ポイントの4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの5の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの6の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
8	在宅学修15ポイントの4-6に関する解説と質疑応答、各自課題に関する演習、ワークショップ、意見交換	リモート授業 (12/7(日)に1コマ(9:00～10:30)開講)
9	在宅学修15ポイントの7の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
11	在宅学修15ポイントの9の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
12	在宅学修15ポイントの10-11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
13	在宅学修15ポイントの7-11に関する解説と質疑応答、各自課題への評価計画に関する演習、ワークショップ、意見交換	リモート授業 (1/10(土)に1コマ(9:00～10:30)開講)
14	在宅学修15ポイントの12-15に関する成果の報告①	対面・リモート授業 (2026年1/25に連続2コマ (9:30～13:00)開講)
15	在宅学修15ポイントの12-15に関する成果の報告②	対面・リモート授業 (2026年1/25に連続2コマ (9:30～13:00)開講)

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間）

受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いて作成する「事業企画書」「評価計画書」、ならびに「事業企画」に関わる評価ツールを最後のスクーリングの折に提出し、参加者に報告して質疑応答する。提出物は意見交換の結果を踏まえて改訂して提出する。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（20%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（参加度30%、プレゼンテーション30%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 大島巖、源由理子、山野則子、賛川信幸、新藤健太、平岡公一編著『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法～CD-TEP法：協働によるEBP効果モデルの構築』日本評論社、2019
- 2) 源由理子、大島巖編（山谷清志監修）『プログラム評価ハンドブック～社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』晃洋書房、2020
- 3) ピーター・H・ロッシ、マーク・W・リブセイ、ハワード・E・フリーマン（大島巖、平岡公一、森俊夫、元永拓郎 監訳）『プログラム評価の理論と方法～システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社、2005
- 4) 大島巖『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から』有斐閣、2016
- 5) 古屋龍太、大島巖編著『精神科病院と地域支援者をつなぐ みんなの退院促進プログラム～実施マニュアル&戦略ガイドライン』ミネルヴァ書房、2021

2023～	生活困窮者支援と貧困研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	阿部 裕二	

■授業のテーマ

貧困と低所得の意味を踏まえながら、多様化・複雑化する対象者に対する支援の方法を考える

■授業の目的

貧困（未就労、低所得、失職、借金、税・社会保険料滞納）とその固定化に対する支援について学ばせる。

■授業の到達目標

労働問題及び格差等の背景と実態を把握し、制度等を活用しながらソーシャルワークを展開できる。

■授業の概要

現代社会において、貧困・低所得といっても一様ではない。貧困概念の拡大を踏まえ、現代の貧困・低所得の現状とその原因・背景を理解するとともに、各種自立に向けた支援の実際について検討する。その際、多職種・多機関の連携を視野に入れながら進める。

■在宅学修

（１）レポート課題

課題 1	格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい。	【提出期限】 ☒ 対面授業 1 週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	スクーリングにおいて取り上げた貧困・生活困窮者の「世帯」を一つ取り上げ、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について述べなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後 1 ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題 1・2 に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（２）アドバイス



格差にはさまざまな格差が存在するが、格差の根底には「貧困・生活困窮」があることを理解するとともに、絶対的貧困から拡大する貧困概念の把握が重要である。その上で、ライスセーフティネット（第 3 のセーフティネット）に位置づけられる生活保護制度など、重層的な生活支援システムを再整理し、これらシステムの限界についても考察することが肝要である。



スクーリング（対面の演習）では「高齢者、ひとり親、傷病・障害者、住所不安定・ホームレスなど」の世帯を取り上げ、それぞれの世帯について、制度論およびソーシャルワーク・アプローチによる支援

の実際と活用を、自身の実践に照らし検討した。そのうちの1つの世帯を取り上げて、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について自身の考えを述べること。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	格差と拡大する貧困概念に関する理解	・ 格差 ・ 絶対的貧困 ・ 相対的貧困、相対的剥奪 ・ 社会的排除 ・ ケイバビリティの欠如	各種格差と多様な貧困の概念を整理するとともに、それぞれの特徴と関係性について学ぶ。
2	貧困状態にある人の生活実態と生活環境はどのようなになっているのか	・ 高齢者世帯 ・ 傷病・障がい者世帯 ・ ひとり親(母子)世帯など	なぜ貧困が生じるのか、そして経済的困難さは何をもたらすのかについて、リスターなどの理論を参考にしながら考察する。
3	社会は貧困をどのようにみているのか	・ 人権と尊厳の尊重 ・ 自己責任論と社会責任 ・ 貧困の文化論 ・ スティグマ	貧困に対する価値観の変容についてまとめるとともに、人権と尊厳の重要性について再確認する。
4	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか①	・ 生活保護制度 ・ ラストセーフティネット	ラストセーフティネットとして生活保護制度の仕組みと諸問題について、「最低生活の保障」と「自立の助長」の視点から理解する。その際、自立は「経済的自立」「社会的自立」「日常生活自立」など多様な意味があることも理解する。
5	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか②	・ 生活困窮者自立支援制度 ・ 第2のセーフティネット	第2のセーフティネットとしての生活困窮者自立支援制度について、「救貧」と「防貧」の視点から課題も含めて理解する。
6	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか③	・ 生活福祉資金貸付制度 ・ 公営住宅 ・ 無料低額診療事業 ・ 無料低額宿泊所	生活保護制度や生活困窮者自立支援制度以外の貧困に対する施策について、役割と関係性について学ぶ。
7	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか④	・ ホームレスの自立の支援に関する特別措置法	日本でのホームレスの意味と、対策の一つとしての時限立法である「ホームレスの自立の支援に関する特別措置法」の内容と特徴について学ぶ。
8	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	・ 福祉事務所など	福祉事務所などの機能と現業員および査察指導員の役割と関係性について整理するとともに、現業員の福祉労働の二重性についても学ぶ。
9	「自立」と「自律」の視点から貧困に対する支援を考える。	・ 自立(就労自立・日常生活自立・社会生活自立) ・ 自律	「自立・自律」を支援するとは何か、ここでは「自立」と「自律」の相違と関係性を踏まえつつ、それぞれの支援の特徴について学ぶ。
10	生活保護制度を活用した支援の実際	・ 相談援助活動 ・ 自立支援プログラム	自らの実践のなかから生活保護における相談支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する(経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
11	生活困窮者自立支援制度を活用した支援の実際	・ 自立相談支援機関 ・ 必須事業と任意事業	自らの実践のなかから生活困窮者自立支援制度における自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する(経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
12	低所得者に対する支援の実際	・ 生活福祉資金貸付制度 ・ 公営住宅 ・ 無料低額診療事業 ・ 無料低額宿泊所	自らの実践のなかからたとえば、新型コロナウイルス感染症拡大により脚光を浴びた生活福祉資金貸付制度を通じた自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する(経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
13	住居不安定者・ホームレスの自立支援の実例	・ホームレスの定義 ・ホームレスの実態に関する全国調査	自らの実践のなかから生活不安定者・ホームレスに対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する(経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
14	精神障害者に対する支援の実例	・社会生活適応訓練事業	自らの実践のなかから精神障がい者に対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する(経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること)。
15	多機関・多職種などの連携の重要性	・多機関・多職種 ・住民、企業との連携 ・地域づくり ・参加の場(居場所)づくり	まとめとして、貧困支援として多機関・多職種の連携の重要性を学ぶ。また、格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい(「レポート課題」の課題1に相当)。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 35時間以上)

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれ300～400字程度にまとめる(対面の演習の1週間前までに提出)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	戦後日本における貧困の「かたち」がいかに変容したのかについて講義する。受講生は、戦後における貧困の変容について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	「ボーガムの貧困論」の視点から日本の貧困の実態について講義する。受講生は、その貧困の実態を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	「見える貧困」のみならず「見えにくい貧困」をとらえる視点の在り方について講義する。受講生は、「見えにくい貧困」をとらえる視点を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	「コロナ禍」における貧困・生活困窮者支援の多様化と限界について講義する。受講生は、「コロナ禍」が貧困へ及ぼす影響を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	「自立支援」という政策目標の功罪と「自律」との関係性について講義する。受講生は、自立支援と自律の関係を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	貧困・生活困窮者支援における「公的支援」と「民間支援」の関係性について講義する。受講生は、「公的支援」と「民間支援」の関係性を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	「高齢者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実例と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
8	「ひとり親世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実例と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
9	「傷病・障害者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実例と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
10	「住所不安定者・ホームレス」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実例と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習

(3) スクーリング事後課題(学修時間目安: 30時間以上)

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること(受講年度の最終レポート受付日までに提出。当年度の締切日を確認すること)。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（15%）、課題2レポート（15%）
- ・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- 1) 朝比奈ミカ、菊池馨実『地域を変えるソーシャルワーカー(岩波ブックレット)』岩波書店、2021年
- 2) 阿部裕二監修『ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
- 3) 伊藤秀一責任編集『貧困に対する支援』弘文堂、2022年
- 4) 岩田正美『貧困の戦後史－貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房、2017年
- ＊5) 金子充『入門 貧困論』明石書店、2017年
- 6) 酒井正『日本のセーフティネット格差－労働市場の変容と社会保障－』慶應義塾大学出版会、2020年
- 7) 佐藤康仁、熊沢由美『格差社会論 第3版』同文館、2023年
- 8) 「貧困研究」編集委員会編『貧困研究』(各号) 明石書房
- ＊9) 棕野美智子編『福祉政策とソーシャルワークをつなぐ』ミネルヴァ書房、2021年

2023～	社会福祉法制・権利擁護研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	菅原 好秀	

■授業のテーマ

社会福祉に関する法律と制度、権利擁護に関する研究

■授業の目的

- 1) 福祉サービス、社会保障制度にかかる法的な構造を理解することを目的とする。
- 2) 利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する実践力の基礎を確立させることを目的とする。
- 3) 社会福祉制度と法の修得を通じて、主に人間理解力と問題解決力について理解を深めることを目的とする。

■授業の到達目標

- 1) 社会福祉サービス・社会保障制度の利用にかかる法的な構造について説明できる。
- 2) 典型的な法的権利侵害場面に対して、利用者の法的権利の侵害を防止・回復する方法について説明できる。
- 3) 法と福祉分野に関する高度な専門的知識を修得することができる。
- 4) 現代社会における多様な問題を的確に分析し、説得力のある法的議論を展開する能力を修得することができる。
- 5) 先行研究、外国文献等の必要な資料を渉猟し、学術的な意義のある論文を作成するための基礎的な研究能力を修得することができる。
- 6) 所定の年限に修士に値する論文を作成することができる。

■授業の概要

- 1) 法的構造については、権利の概念、社会正義、倫理、民法（能力、契約、後見）、行政法（行政処分、不服申立）について研究していきます。
- 2) 権利擁護に関する法律については、消費者保護の制度、虐待防止法、障害者の権利に関する条約、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、子どもの権利条約について研究していきます。
- 3) 少年については、少年法・少年審判、家庭裁判所等裁判所及び裁判に関して、研究していきます。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する支援モデルを考える。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	成年後見制度における後見事例・保佐事例・補助事例をそれぞれ挙げて、権利侵害に対処・防止する支援モデルを、本人の意思決定支援を踏まえて具体的に論じなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項

の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、権利擁護、成年後見制度（後見・保佐・補助）、消費者保護制度、意思決定支援制度、虐待防止法の制度の概要を確認しておいてください。ソーシャルワークに関する法的な基礎知識を確認し、ソーシャルワークによる法的支援の実際について、事例研究などを通じて、具体的な法的な対応ができるように学修してください。

課題2 アドバイス

成年後見制度における後見事例・保佐事例・補助事例をそれぞれ挙げて、①本人の状況、②支援経過、③考察に分けて、法的支援による権利侵害に対処・防止する支援モデルを、意思決定支援を踏まえて具体的に論じてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	権利擁護に必要な法制度	権利の概念、社会正義、倫理	権利の概念、権利擁護の意義、社会正義、倫理の概念について学修する。
2	ソーシャルワークと民法との関わり	民法（能力、契約）	権利能力、意思能力、行為能力、債務不履行、契約不適合責任について学修する。
3	成年後見制度について	後見・保佐・補助	成年後見制度における後見の概要、保佐の概要、補助の概要について学修する。
4	ソーシャルワークと行政との関わり	行政処分、不服申立	行政の行為形式（行政処分）、行政救済制度（行政不服申立て、行政訴訟）について学修する。
5	消費者保護の制度について	消費者契約法、クーリングオフ	消費者被害支援事例について学修する。
6	虐待防止法について	高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、DV防止法	虐待防止法・暴力防止関係法の概要について学修する。
7	障害者の権利に関する条約について	合理的配慮、医学モデル、社会モデル	障害者権利条約と意思決定支援について学修する。
8	障害者差別解消法について	障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律	障害を理由とする不当な差別的取扱いと考えられる例と合理的配慮と考えられる例、障害特性に応じた対応について学修する。
9	子どもの権利条約について	生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利	子どもの権利条約における「4つの原則」について学修する。
10	少年法・少年審判について	非行少年、保護観察	非行少年の対応事例を学修する。
11	非行少年と家庭裁判所の役割について	保護処分、家庭裁判所調査官、少年院	非行少年の保護事件の審判手続について学修する。
12	認知症高齢者への権利擁護に関する支援について	地域包括支援センター、日常生活自立支援事業	認知症高齢者の具体的事例を分析、検討し、その積み重ねを通して帰納的に一般的な論理の探究をする。
13	法的権利侵害とその対処事例について	個人支援の限界、公的支援の種類	法的権利侵害の事例研究を通じて、権利擁護に関わる専門職の役割と現状について学修する。
14	意思決定支援の事例研究について	意思形成支援、意思表示支援、意思実現支援、最善の利益	意思決定ガイドラインにおける事例研究を本人の最善の利益の視点から学修する。
15	成年後見事例について	成年後見制度、任意後見制度	本人の意思決定支援と権利擁護の視点から学修する。まとめとして、利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する支援モデルを考える。（「レポート課題」の課題1に相当）

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれ300～400字程度にまとめる（同時双方向または対面の演習の1週間前までに提出）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	権利の概念、権利擁護の意義、社会正義、倫理の概念について講義する。受講生は、権利擁護の本質を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	成年後見制度における後見の概要、保佐の概要、補助の概要について講義する。受講生は、成年後見制度を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、DV防止法について講義をする。受講生は、虐待防止法を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	行政の行為形式（行政処分）、行政救済制度（行政不服申立て、行政訴訟）について講義する。受講生は、行政救済制度を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	消費者保護の制度における消費者契約法、クーリングオフについて講義する。受講生は、消費者保護を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	非行少年、保護観察について講義する。受講生は、非行少年における保護観察を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	障害を理由とする不当な差別的取扱いと考えられる例と合理的配慮と考えられる例、障害特性に応じた対応について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
8	法的権利侵害の事例研究を通じて、権利擁護に関わる専門職の役割と現状について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
9	意思決定ガイドラインにおける事例研究を本人の最善の利益の視点について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
10	成年後見事例における後見事例、保佐事例、補助事例について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（15%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1）菅原好秀著『権利擁護と法』（建帛社）2022年
- 2）菅原好秀著『リスクマネジメントと法』（建帛社）2020年
- 3）菅原好秀編著『福祉ライブラリー 福祉法学 第2版』（建帛社）2020年

2023～	子ども・家庭と女性福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	竹之内 章代	

■授業のテーマ

子ども・家庭・女性の社会的課題について、歴史や社会福祉の理論やアプローチ等を踏まえ、ソーシャルワークの視点から考察する

■授業の目的

児童及びその家族の支援に関して、各種の基礎理論及びソーシャルワーク理論に基づくアプローチの方法等を学修し、実践に活用できるようにする。

■授業の到達目標

- ・理論の成り立ち、主要概念、方法論等について説明できる。
- ・理論・アプローチを踏まえて、自身の実践の省察、評価し、実践の改善課題等について説明できる。

■授業の概要

子どもの抱える課題は、おとなやおとな社会の縮図であり、子どもそのものの問題というよりも、その環境との関連で理解する必要がある。子どもに対する福祉は、社会福祉の歴史でも早くから対応の必要がいわれていた分野でもある。しかしながら、子どもを一人の人格を持った存在として「権利主体」として捉えられるようになるまでの歴史はまだ浅い。それらの歴史的経緯、社会や時代などの環境の変化は、子どもたちの福祉的課題に影響を及ぼしている。それらの考察をしつつ、現代的な課題について理解する。さらに、子どもを取り巻く環境である、家族やいまだ子育ての主体者とされる女性にも焦点をあてて、課題を考察していきたい。

子どもや家庭、女性が政策的な課題としても取り上げられている現在、その中でソーシャルワークを展開する意義やその役割について考えるとともに、ともすれば「家庭生活」、いわゆる「家事」「育児」「介護」などの問題は固定的な性別役割分業に未だに縛られており、それが福祉現場においてもだれでもできる仕事とされがちであることから「福祉労働」や「専門性」についても、再考していきたい。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	社会福祉の歴史的な展開を踏まえ、児童救済、児童保護、児童の人権と発展してきた歴史について概観したうえで、「子ども家庭福祉」の今日的課題をとりあげて、考察しなさい。(あるいは、女性福祉の史的展開を踏まえ、女性福祉の今日的課題を取り上げて、考察しなさい。)	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	子ども家庭福祉と女性福祉における分野を一つとりあげて、社会福祉専門職の役割と意義の課題について論じなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項

の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

しょう。

社会福祉の歴史的な展開の理解と、子どもが歴史的にどのような存在であったのかを「権利」という切り口で学修してみてください。また、女性福祉に関心のある方は「売春防止法」が制定されるまでの娼婦の歴史と「困難問題を抱える女性への支援に関する法律」までの流れを踏まえて考えると良いでしょう。

課題2 アドバイス

子ども家庭福祉や女性福祉の実践にかかわっている方は、自身の実践体験も踏まえて、考えてみると良いと思います。また、実践にかかわっていない方は、参考文献などの事例からどのような課題があるかを整理してみましょう。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	子ども家庭福祉の理念と考えかた	子どもにとっての生存権、子どもと環境	児童福祉から子ども家庭福祉となった転換点について学修する。子どもを理解するため発達心理などの理論を通じて学修する。
2	子ども家庭福祉の歴史1	児童救済、小さなおとな	子ども家庭福祉のかかわりが「児童救済」から始まった歴史的経緯を学修する。
3	子ども家庭福祉の歴史2	児童保護、子どもの救済の最優先	「児童救済」から「児童保護」に子どもの福祉的観点が変化したことや戦争時の子どもたちのおかれた状況について学修する。
4	子ども家庭福祉の歴史3	子どもの権利、子どもの最善の利益	子どもの権利について、第二次世界大戦後から「子どもの権利条約」制定、それ以降の子どものとらえ方を学修する。
5	女性福祉の歴史1	近代以前の女性の権利、近代以降の女性の権利、娼婦運動	女性の権利がどのような変遷を遂げてきたのかを近代以前とそれ以降の状況について「売買春」を軸に理解する。
6	女性福祉の歴史2	売春防止法の制定、女性の権利、ジェンダー	戦後、売春防止法の制定までの歴史を学修するとともに、福祉がどのようにかかわってきたかを学修する。
7	女性福祉の現代的課題	DV、売買春、母子の貧困、「困難問題を抱える女性への支援に関する法律」	家庭内暴力、現代の売買春、母子家庭の貧困など現代的な女性福祉にかかわる課題について福祉とのかかわりで学修する。
8	子ども家庭福祉の制度と実施体制	児童福祉六法、実施体制	日本における子ども家庭福祉にかかわる法制度、サービス、実施主体、実施体制について学修する。
9	子ども家庭福祉にかかわる専門職	福祉、保健 / 医療、心理、教育、労働との関連	実際にどのような専門職が子どもや家庭に対してかかわり、どのような連携が行われているのかを学修する。福祉専門職としてのかかわりの視点を理解する。
10	子ども家庭福祉の分野1	子ども・子育て支援、保育	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学修する。
11	子ども家庭福祉の分野2	障がいがある子どもと家庭、母子保健	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学修する。
12	子ども家庭福祉の分野3	社会的養護、虐待	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学修する。
13	子ども家庭福祉の分野4	ひとり親家庭、子どもの貧困	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学修する。
14	子ども家庭福祉の課題	子どもと環境、ソーシャルワークの視点	子どもを取り巻く環境を総括し、あらためてソーシャルワークの視点での支援のあり方や福祉専門職としての役割について再確認を行う。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	まとめ		子ども家庭福祉や女性福祉をソーシャルワークとの関連で整理し、研究課題を考える。 まとめとして、社会福祉の歴史的な展開を踏まえ、児童救済、児童保護、児童の人権と発展してきた歴史について概観したうえで『子ども家庭福祉』の今日的課題をとりあげて、考察しなさい（あるいは、女性福祉の史的展開を踏まえ、女性福祉の今日的課題を取り上げて、考察しなさい）。（「レポート課題」の課題1に相当）

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれ800～1,200字程度にまとめる（対面の演習の1週間前までに提出）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	子ども家庭福祉の理念について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の理念を学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	子ども家庭福祉の史的展開について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の史的展開を学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	（2回に続き）子ども家庭福祉の史的展開について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の史的展開を学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	女性福祉の史的展開について講義する。受講生は、女性福祉の史的展開を学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	子ども家庭福祉及び女性福祉に関するソーシャルワークの理論やモデル、アプローチについて講義する。受講生は、その理論やモデル、アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	（5回に続き）子ども家庭福祉及び女性福祉に関するソーシャルワークの理論やモデル、アプローチについて講義する。受講生は、その理論やモデル、アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	子ども家庭福祉の分野における子育て支援、保育について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
8	子ども家庭福祉の分野における障がいがある子どもへの支援と母子保健について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
9	子ども家庭福祉の分野における虐待と社会的養護について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	子ども家庭福祉の分野におけるひとり親家庭と子どもの貧困について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（15%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 山縣文治著『子ども家庭福祉論』ミネルヴァ書房、2018年

- ＊ 2) 杉本貴代栄編著『女性学入門－ジェンダーで社会と人生を考える 改訂版』ミネルヴァ書房、2018年
- 3) 柏女霊峰著『これからの子ども・子育て支援を考える』ミネルヴァ書房、2017年
- 4) 日本弁護士連合会子どもの権利委員会編『子どもの権利ガイドブック（第2版）』明石書店、2017年
- 5) 松本伊智郎編『「子どもの貧困」を問い直す－家族・ジェンダーの視点から』法律文化社、2017年
- 6) 児玉勇二『子どもの権利と人権保障－いじめ・障がい・非行・虐待事件の弁護活動から』明石書店、2015年
- 7) 林千代編『婦人保護事業 50年』ドメス出版、2008年
- 8) 森田ゆり『子どもと暴力』岩波書店、1999年
- 9) 子どもの貧困白書編集委員会編『子どもの貧困白書』明石書店、2000年
- 10) 荒巻重人ほか編『外国人の子ども白書』明石書店、2017年
- 11) 相沢仁ほか『やさしくわかる社会的養護シリーズ1～7』明石書店、2014年
- 12) 滝川一廣ほか編『子どもの心をはぐくむ生活』東京大学出版会、2016年
- 13) 宮本みち子編『すべての若者が生きられる未来を』岩波書店、2015年
- 14) 宮本みち子編『下層化する女性たち』勁草書房、2015年
- 15) 日本弁護士連合会編『女性と労働』旬報社、2011年
- 16) 施設で育った子どもたちの語り編集委員会編『施設で育った子どもたちの語り』明石書店、2012年
- 17) 須藤八千代編『母子寮と母子生活施設のあいだ』明石書店、2007年
- 18) 日本子どもを守る会編『子ども白書』本の泉社 各年版、日本婦人団体連合会『女性白書』ほるぶ社 各年版など

2023～	高齢者福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	石附 敬	

■授業のテーマ

老いの諸相と高齢者支援の課題

■授業の目的

- 1) 社会老年学 (social gerontology) を中心とした老いに関する諸理論、超高齢社会の課題について学ぶこと。
- 2) 高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの理論と課題について学ぶこと。

■授業の到達目標

- 1) 老いに関する諸理論について理解し、身近な事例を題材に検討することができる。
- 2) 超高齢社会の課題について、考えを述べることができる。
- 3) 地域包括ケアシステムの理論と課題について述べることができる。

■授業の概要

日本の老年人口比率は29%を超え、4人に1人が高齢者となり、さらに男女ともに多くの人が人生80年以上を享受できる時代となった。一方で、家族機能の脆弱化、高齢者のみ世帯の増加など、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増している。今後、人々が安心して高齢期を迎えることができるために、何が必要なのか？

本講義では、①まず初めに、社会老年学を中心とした老いに関する諸理論の学びを通じて、幸せに老いるためには何が重要なのかについて、身近な事例も活用して考えていく。②次に、人々がそれぞれ相応しい場所で老いていく (aging in place) ことを支える、地域包括ケアシステムの理論と現状について学ぶ。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論を用いて考察してください。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	地域包括ケアシステムとは何か。そして、日本に導入された背景と、これまでの変遷について述べなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



高齢者（できれば後期高齢者が望ましい）に、その方の幼少期から高齢期までの人生を何回かに分けて（1回当たり1時間以内）聴いてみてください。ポイントはあなたの質問に対して、自由に語って

ただくことです。聴きとった内容をもとに、その方の人生をオーラルヒストリーとしてまとめてください（これは提出の必要はありません）。これを事例として、レポートではオーラルヒストリーを簡潔にまとめて、老いの諸理論を活用して考察を述べてください。文中では個人が特定できないよう、仮名やアルファベット表記などで匿名としてください。該当する協力者が得られない場合は、高齢者の人生について書かれた書籍を事例として使用してください。



テキスト2)を丁寧に読んで、要点をまとめてください。また、厚生労働省のHPや参考文献で提示した特集論文なども参考にすると良いでしょう。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	老年学とは	老年学の定義、テキストの構成	老年学はどのような学問であるか学ぶ。 【テキスト1)の序章】
2	老年学の研究方法	実証研究のプロセス、文献レビュー、量的・質的研究	老年学の研究方法について学ぶ。 【テキスト1)の第1章】
3	老いと社会	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、エイジズム、社会参加	老年社会学の理論と、高齢期の社会関係について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト1)の第4章】
4	老いと健康	老化と寿命、老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病	老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病の特徴について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト1)の第2章】
5	老いと心理	生涯発達、感覚、記憶、孤独、コミュニケーション	老化と障害発達、感情と孤独、について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。 【テキスト1)の第3章】
6	高齢者と家族への支援、死生学	高齢者と家族を支える制度、福祉の実践方法、死生学	高齢者と家族を支える制度と支援方法について学ぶ。【テキスト1)の第5、6章】
7	事例検討①	オーラルヒストリー	あなたが幸福だと思う身近な高齢者に、幼いころから今までの人生について話を聴いてみてください。そして、老いの諸理論を用いて、その方がなぜ幸福でいるのか、高齢者やその家族への支援を展開する上での視点について考察してください。身近に対象者がいない場合は、高齢者の人生が書かれた書籍を読んで考察してください。
8	事例検討②	オーラルヒストリー	つづき
9	地域包括ケアシステムの背景	日本の現状と背景	地域包括ケアシステムに関して、日本の現状と背景について学ぶ。 【テキスト2)第1章】
10	地域包括ケアをめぐる議論①	integrated care、定義	地域包括ケアの重要な理論である integrated care とチームアプローチについて学ぶ。【テキスト2)第2章1節】
11	地域包括ケアをめぐる議論②	2006年モデル、2012年モデル	日本における地域包括ケアシステムの変遷についてまとめてください。 【テキスト2)第2章2節】
12	地域包括ケアシステム構築の方法①	諸外国の例	諸外国の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。 【テキスト2)第3章1節】
13	地域包括ケアシステム構築の方法②	日本の例	日本の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。 【テキスト2)第3章2節】
14	地域包括ケアシステムの課題①	認知症高齢者の在宅支援	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。 【テキスト2)第4章1節】
15	地域包括ケアシステムの課題②	ケアマネジメント、評価体制	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。(つづき) まとめとして、あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを用いて考察する(「レポート課題」の課題1に相当)。【テキスト2)第4章2～3節】

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、その内容をA4・3枚程度にまとめる（対面の演習の1週間前までに提出）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	本科目の概要、学修の進め方、事例研究の方法について共通理解を図る。受講生は、本科目の概要等を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	日本の社会の高齢化の現状と諸課題について講義する。受講生は、日本の社会の高齢化の現状と諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題について講義をする。受講生は、老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	老いの総合的理解、オーラルヒストリーを基にして講義する。受講生は、老いの総合的理解、オーラルヒストリーを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	高齢者保健福祉の発展過程について講義する。受講生は、高齢者保健福祉の発展過程を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	地域包括ケアシステムとその課題について講義する。受講生は、地域包括ケアシステムとその課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	各自取り組んだオーラルヒストリーを素材にした対象高齢者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
8	（7回に続き）各自取り組んだオーラルヒストリーを素材に対象利用者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
9	各自の居住地の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	（9回に続き）各自の居住地の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（15%）、課題2レポート（15%）
- ・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明編著『老年学を学ぶ 高齢社会の学際的研究』桜美林大学出版会、2021年
- *2) 筒井孝子著『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略』中央法規、2014年
- 3) Robert C. Atcheley & Amanda S. Barusch (2004) Social Forces and Aging: An Introduction to Social Gerontology 10th ed. Thomson Learning. (= 2005, 宮内康二編訳『ジェロントロジー～加齢の力学～』きんざい.)
- 4) 「特集 地域包括ケアシステムの構築と深化；課題と展望」『老年社会科学』39巻4号、p.415-459、日本老年社会学会、2017年

2023～	高齢者福祉研究Ⅱ (認知症ケア研究)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	加藤 伸司	

■授業のテーマ

加齢に伴って起こる心理学的変化、認知症の原因疾患と心理的特徴、パーソンセンタードケアの基本的な考え方、介護家族の特徴と支援の在り方を理解する。また認知症のアセスメント技法を学び、その効用や限界について理解する。

■授業の目的

社会福祉及び福祉心理学領域における高齢者支援の実際を社会福祉及び心理学の視点から理解し、アセスメントや援助技法などを修得する。

■授業の到達目標

- ・ 高齢者心理学及び近接領域のこれまでの研究成果を理解し、エビデンスに基づく理論的な考え方を説明できる。
- ・ 認知症のアセスメントの技法を理解し、認知症の人を対象にした簡便なアセスメント技法を習得し、応用できる。
- ・ 認知症の人に対するケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を理解し、説明できる。
- ・ 認知症の人および介護家族の思いを理解し、支援に役立てることができる。

■授業の概要

高齢者心理学及び近接領域で取り組んできた課題について基本的な理解を深める。具体的には「感覚・知覚機能の変化」「反応の変化」「注意の変化」「記憶の変化」「知的機能の変化」などの心理学的変化を系統的に学び、高齢者に対する心理学的な理解を深めていく。これらのテーマを基本的に理解したうえで、認知症の原因疾患別の特徴と、認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を学び、支援にあたっての基本姿勢を身に着ける。さらに認知症のアセスメント技法について学び、アセスメントの実施方法だけではなく、結果の考え方を理解し、実際に応用できる知識を習得する。最後に認知症の当事者と介護家族の思いを理解し、当事者や家族の視点に立った支援につなげることができるようになる。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1 (事前課題)	認知症の原因疾患について、興味のあるものを1つ選び、その原因と臨床的特徴などについて触れ、認知症の人に対する心理的支援について自分の意見を交えて考察する。	【提出期限】 ☐ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☒ その他 (対面授業当日まで)
課題 2 (事後課題)	認知症のアセスメント技法について、自分の興味のあるものを選択し、その使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。	【提出期限】 ☒ 対面授業後1ヶ月以内 ☐ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

学修テーマ8～11の内およびスクーリング授業の5、6のオンデマンド授業を参考にまとめる。出現頻度が最も高いのはアルツハイマー型認知症、次いで血管性認知症の順になるが、近年ではレビー小体型認知症も増えており、前頭側頭型認知症は若年期に発症することも多く、対応に苦慮する認知症である。この4つの認知症の中から興味のあるものを1つ選択し、レポートをまとめる。原因と臨床的特徴をまとめるだけでなく、その疾患に対する心理的な支援の在り方についてまとめる。資料やテキストを参考にまとめるが、必ず自分自身の考え方や意見を取り入れて考察することが大切である。

課題2 アドバイス

学修テーマ8～11の内容およびスクーリング授業の5、6のオンデマンド授業を参考にまとめる。スクーリングでは、HDS-Rを中心に解説するが、MMSEや他のアセスメントをテーマに取り上げても良い。アセスメントの使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめるだけでなく、必ずそのアセスメントに対する自分自身の感じたことや意見を交えて考察することが大切である。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚	テキスト1を参考に感覚や知覚に及ぼす加齢の影響について学ぶ。
2	反応時間や反応の種類に及ぼす加齢の影響	単純反応、選択反応、反応エラー	テキスト1を参考に反応時間や反応の種類の変化について学ぶ。
3	注意の変化	持続注意、分割注意	テキスト1を参考に加齢が注意にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
4	記憶に及ぼす加齢の影響	記憶のモデル、記憶の種類、加齢	テキスト1を参考に加齢が記憶機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
5	知的機能に及ぼす加齢の影響	知能低下、流動性知能、結晶性知能、終末低下	テキスト1を参考に加齢が知的機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
6	加齢に伴う心理学的変化	加齢に伴う心理学的変化	1～5で学んだことをスクーリングのオンデマンド授業を視聴して理解を深める。
7	認知症の実態	出現率、MCI	認知症の出現率、正常加齢とMCIの相違について学ぶ。
8	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	アルツハイマー型認知症	テキスト2を参考にアルツハイマー型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
9	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	血管性認知症	テキスト2を参考に血管性認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
10	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴③	レビー小体型認知症	テキスト2を参考にレビー小体型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
11	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴④	前頭側頭型認知症	テキスト2を参考に前頭側頭型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
12	認知症の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	中核症状、BPSD、パーソンセンタードケア	テキスト2を参考に中核症状とBPSD、パーソンセンタードケアの基本的考え方についてスクーリングで学ぶ。
13	認知症のアセスメント	HDS-R、MMSE、行動評価尺度。	テキスト2、3を参考に認知症のアセスメントについてスクーリングで学ぶ。(レポート課題2)
14	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	介護家族、家族支援	介護家族の状況とストレス、具体的な支援方法についてスクーリングで学ぶ。
15	認知症の人と当事者に学ぶ	心理的状況、支援者への望み	スクーリング時に当事者と家族の映像を視聴し、当事者と家族を理解する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安:24時間以上)

- ・事前課題は、学修テーマ8～12の内容を学修し、まとめる。

- ・スクーリングのオンデマンド授業は、対面・リモート授業日の1カ月前から配信する。
- ・スクーリングのオンデマンド授業及び対面 or リモート授業にあたっては、事前に資料を作成するので、各自がダウンロードしてスクーリングに臨む。
- ・スクーリングの5～6のオンデマンド授業を視聴し、参考にする。
- ・レポート課題1は、スクーリングの7の対面・リモート授業の日までに提出する。
- ・レポートは、4,000字程度でまとめ、レポートの最後に（4,025字）のように記載する。

（2）スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
2	反応時間や反応の種類、注意に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
3	記憶に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
4	知的機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
5	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	オンデマンド
6	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	オンデマンド
7	認知症のアセスメント	対面orリモート
8	認知症の人の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	対面orリモート
9	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	対面orリモート
10	認知症の人と当事者に学ぶ	対面orリモート

（3）スクーリング事後課題（学修時間目安：6時間）

- ・事後課題は、学修テーマ13及びスクーリング授業計画8（対面 or レポート）の内容を学修し、まとめる。
- ・レポート課題2は、スクーリング終了後1カ月以内に提出すること。
- ・レポートは、4,000字程度でまとめ、レポートの最後に（4,025字）のように記載する。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング参加とスクーリングの事前・事後課題を合わせて評価する
- ・スクーリング（参加度と積極性40%）
- ・課題1レポート（30%）、課題2レポート（30%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1）加藤伸司編著『発達と老化の理解』介護福祉士養成テキストブック10 ミネルヴァ書房、2010年
- ＊2）加藤伸司著『認知症の人を知る』ワールドプランニング社、2014年
- ＊3）大塚俊男・本間昭監修『高齢者のための知的機能検査の手引き』ワールドプランニング社、2016年
- 4）認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト 改訂5版・Ⅰ認知症ケアの基礎』ワールドプランニング社、2022年
- 5）加藤伸司・長谷川和夫著『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』中央法規、2020年

2023～	障害者福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	三浦 剛	

■授業のテーマ

ソーシャルワーク理論に基づく「障害者福祉（障害者支援）」研究

■授業の目的

ソーシャルワークの視点から障害者福祉を整理検討し、ソーシャルワーク理論に基づくアプローチの方法を学び、実践活用にも結びつけられるようになることを目的とする。

■授業の到達目標

- ・ソーシャルワークの枠組みを理解し、障害者福祉領域での諸問題を解決するための研究方法を修得する。
- ・基礎的なソーシャルワーク研究方法を習得し、障害者福祉研究のデザインをすることができる。

■授業の概要

「障害者福祉」とは障害がある方への支援施策の全体をさすことばとして使われてきたが、その一領域であるソーシャルワークは、この分野で未だに明確な固有性を示せていない。ここではソーシャルワークの視点からその歴史的展開や理念についてとらえ直し、障害がある人にかかわるソーシャルワークの意味と価値を考える。つぎにソーシャルワーク理論からそのアプローチについて分析、検討し、ソーシャルワーク・モデルを開発する。その枠組みからこれまでの施設入所などの支援を分析し、その方法、技術について再考する。

障害がある人たちへのソーシャルワークのもう一つの課題として、重度の障がいがある人をどうとらえるかがある。アドボカシー、意思決定支援と社会貢献の視点から、実践活用にも結びつくように、直接的支援のあり方や質に関する議論も進めていきたい。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	障害者支援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを考える。	【提出期限】 ☒ 双方向対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、支援方法や支援システムを、開発し、そのプロセスや評価法についても具体的に述べる。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、障害の概念、障害者支援の史的展開に関する基礎的な知識を学修しておいてください。そして、ソーシャルワークの枠組み（視点・モデル・アプローチ）に関する基礎知識を確認し、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、事例研究などを通し具体的なイメージがもてるよう学修してください。

課題2 アドバイス

スクーリングでの学びを踏まえ、ソーシャルワークの視点から障害者支援の枠組みを示してみる。そして、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際（プロセス、評価ポイントなど）から、ソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを構築してみる。その際には、支援システムによる多機関連携やチームアプローチについても視点を置く必要がある。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	生活困窮と障害	遺棄、虐待、働けない貧民、生存権	生存権の確認(20世紀初頭)までの障害がある人のおかれた環境について学修する。
2	人権と障害	人権思想 リハビリテーション	人権思想の興りから第二次大戦後までの展開について学修する。
3	保護偏重の施策について	大規模施設、コロニー、分離処遇など	北欧やアメリカでの施設の大規模化、保護偏重化への過程を分析し、学修する。
4	ノーマライゼーションの理念	1959年法 脱施設、施設解体	保護偏重に対するノーマライゼーション理念の興りとアメリカでの展開について学修する。
5	「自立」概念の拡大	IL 運動、消費者主義	IL (independent living) 運動が自立の概念を拡大していく過程を学修し、障害学への展開にも触れる。
6	地域支援と契約制度について	社会福祉法、契約制度、応益負担	日本を中心に近年の制度動向についてキーワードを中心に学ぶ。
7	ソーシャルワークの歴史	社会問題、ケースワーク	障がいの問題を社会問題ととらえ、人と環境の相互作用を視点にソーシャルワークとの関連性を学ぶ。
8	ソーシャルワークの枠組み	生態学的視点、生活モデル、環境調整、エンパワメント	ソーシャルワークの視点、モデル、アプローチについて学び、ICF との親和性を中心に、障害者支援におけるソーシャルワークの意味を知る。
9	ソーシャルワークの視点について(エンパワメント、アドボカシーの概念)	アドボカシー、エンパワメント、ストレングス	近年、障害者福祉の中心的概念となったアドボカシーとエンパワメント、ストレングスについて学ぶ。
10	ソーシャルワークの展開について(1)	ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続体、生物・心理・社会モデル、障害受容、家族支援、SST、認知行動療法など	人と環境との相互作用が、個人、家族、地域、制度などのレベルへ連続していることと、その支援展開の実際を学ぶ。
11	ソーシャルワークの展開について(2)	社会資源開発、ネットワーク形成、チームアプローチ、コーディネーション	障害がある人の地域支援活動に必要な、ソーシャルワークの開発機能について、基礎知識、方法を学ぶ。
12	ソーシャルワークの展開について(3)	ソーシャル・アクション、ネゴシエーション	開発機能に必要とされる関連技術の基礎知識と方法を学ぶ。
13	ソーシャルワークの展開について(4)	ケアマネジメント、障害者相談支援事業	障害者支援の実際をケアマネジメント・プロセスに沿って理解する。
14	ソーシャルワーク実践活用へ向けて	事例研究法	ソーシャルワーク実践における障害者支援の実際について事例研究を中心に学び、実践活用の方法を考える。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	まとめ		ソーシャルワークと障害者支援の関連性を明確にし ながら、ソーシャルワークの枠組みを通して障害者 支援を再構築してみる。まとめとして、「障害者支 援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点 を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・ア プローチによる支援モデルを考える」(「レポート課 題」の課題1に相当)

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安: 35時間以上)

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれにまとめる(同時双方向演習の1週間前までに提出)。
全体で4,000字程度にまとめる。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障害がある人へのかかわりの歴史と障害概念の変遷と近年の到達点(ICFの考え方、差別禁止の方向性、障害学の展開など)について講義する。受講生はその歴史と障害概念を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	障害者支援におけるソーシャルワーク・アプローチの起源について及びソーシャルワークの理論と枠組み(生態学的視点、生活モデル、一般システム理論など)について講義する。受講生はソーシャルワークの歴史的展開を理解し、その起源と障害者支援の関連性に着目し、またソーシャルワークの視点、モデル、アプローチと障害者支援の関連性を把握し確認テストに解答する。	オンデマンド
3	障害者支援におけるソーシャルワークの視点(アドボカシー、エンパワメント、ストレングス)について講義する。受講生はアドボカシー、エンパワメントといったソーシャルワークの視点が、障害者支援にどのように具体化するかなどを理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(障害受容、SST、認知行動療法、家族システムズなど)について講義する。受講生は、障害児者への直接的支援として、その方法を具体的に理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(意思決定支援)について講義する。受講生は意思決定支援の意味、意義を理解した上で、その具体的実践方法について検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(社会資源開発、チームアプローチ、多機関連携と地域支援システム)について講義する。受講生はチームアプローチなどの方法を具体的に理解し、その実践方法を検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワーク理論・アプローチによる支援の実践(生活支援、ケアマネジメント)について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
8	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実践と活用(働くこと、日中活動への支援)について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
9	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実践と活用(発達すること、学ぶことへの支援)を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
10	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実践と活用(支援システム、地域自立支援協議会など)を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：30時間)

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること。(受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること)。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート (15%)、課題2レポート (20%)
- ・スクーリング (事前課題15%、全スクーリング50%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- 1) 中野敏子『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009年
- 2) M. オリヴァー著 野中猛・河口尚子訳『障害者にもとづくソーシャルワーク』金剛出版、2010年
- 3) C.A. ラップ R.J. ゴスチャ著 田中英樹訳『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント』金剛出版、2008年
- 4) L.C. ジョンソン S.J. ヤンカ著 山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年
- 5) 岩田正美『社会的排除ー参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008年
- 6) 久保紘章・副田あけみ『ソーシャルワークの実践モデルー心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 7) 狭間香代子『社会福祉の援助観ーストレングス視点／社会構成主義／エンパワメント』筒井書房、2001年
- 8) 横須賀俊司・松岡克尚『障害者ソーシャルワークへのアプローチーその構築と実践におけるジレンマ』明石書店、2011年
- * 9) 山下香『ソーシャルワークマインドー障害者相談支援の現場からー』瀬谷出版、2018年

2023～	障害者福祉研究Ⅱ (基礎的理解と臨床)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	関川 伸哉	

■授業のテーマ

障害者福祉の基礎的理解の整理と事例から学ぶ生活モデルに基づくアプローチ

■授業の目的

障害者福祉の歴史等を整理する中で、現代社会における障害形態の特徴や傾向等について学び、共生社会の実現（マクロレベル）について学修するとともに障害者福祉と共生社会について考察を深めることを目的とする

■授業の到達目標

- ・障害者福祉に関するベースとなる知識の整理を行い自らの言葉で他者に説明することができる
- ・今日における障害の特徴や傾向等について医学的な側面を含め説明することができる
- ・共生社会をベースとした今後の障害者福祉について事例をもとに考察・説明することができる

■授業の概要

現代社会（本講義では戦後）の障害者福祉について学ぶ中で、「障害者福祉とは」の基本の整理を行う。次に今日における生活課題の整理を行う中で、地域共生社会の実現に向けた社会福祉専門職の専門性について考察を行う。また、今日の障害特性等について事例をもとに確認しながら、障害者福祉と共生社会について学修を行う。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	「障害者福祉に関わる理念の変遷と価値」および「障害者福祉の世界的動向（国内は含まない）」についてまとめ、「障害者福祉とは」について論考せよ	【提出期限】 ☐ 対面授業 1 週間前まで ☒ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2	「今日における地域共生社会の意味と重要性」および「これからの地域共生社会と障害者福祉」についてまとめ、障害者を取り巻く現状やその抱える課題について論考せよ	【提出期限】 ☒ 対面授業後 1 ヶ月以内 ☐ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題 1・2 に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



- ・レポート作成の際には、5 つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください
参考及び引用文献記入例：
1) 関川伸哉：高齢障害者支援のあり方と実践，医歯薬出版株式会社，22-34，2016
- ・レポート作成の際、引用箇所がわかるように必ず本文中に引用番号を記載してください
記載例：〇〇〇が、内部障害者の自立支援につながる¹⁾

- ・必ず、以下の章立てを行ってください
- 1. 障害者福祉に関わる理念の変遷について
- 2. 障害者福祉の価値について
- 3. 障害者福祉の世界的動向について
- 4. 障害者福祉とは？
- 5. まとめ

参考及び引用文献

課題2 アドバイス

- ・レポート作成の際には、5つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください
- ・レポート作成の際、引用個所がわかるように必ず本文中に引用番号を記載してください
- ・必ず、以下の章立てを行ってください
- 1. 今日における地域共生社会の意味について
- 2. 今日における地域共生社会の重要性について
- 3. これからの地域共生社会と障害者福祉について
- 4. 障害者を取り巻く現状やその抱える問題について
- 5. まとめ

参考及び引用文献

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	戦後の障害者福祉について整理する①	戦後間もない時期の日本、制度の整理	1945年～1980年の日本の動向
2	戦後の障害者福祉について整理する②	日本の高度経済成長期後、障害形態等の変化	1980年～2000年の日本の動向
3	戦後の障害者福祉について整理する③	措置から支援費、世界の動向	2000年以降の日本の動向
4	戦後の障害者福祉について整理する④	ノーマライゼーション、国際障害者年	1945年～1990年の世界の動向
5	戦後の障害者福祉について整理する⑤	CBR、ICF、国際動向	1990年以降の世界の動向
6	障害とは？	障壁、マイノリティ、スティグマ	3 障害以外の視点から考える
7	障害者福祉とは？	社会、生活、共生	上記を（1～6）踏まえて考察
8	障害者福祉実践の価値とは？	社会福祉の知識・技術・価値	上記を（1～7）踏まえて考察
9	地域共生社会とは？	共生、地域、村社会	厚生労働省等の定義をもとに、各自の言葉で考察
10	何故、地域共生社会の実現が重要なのか？①	Society.5.0、VUCA、人口減少	上記を（1～8）踏まえて考察
11	何故、地域共生社会の実現が重要なのか？②	便利、自立、村社会	上記を（1～8）踏まえて考察
12	地域共生社会と障害者福祉①	生活上の課題、地域生活	上記を（1～11）踏まえて考察 主に生活の場から考える
13	地域共生社会と障害者福祉②	就学、就労	上記を（1～11）踏まえて考察 主に学び働く場から考える
14	地域共生社会と障害者福祉③	ライフサイクル、移動	上記を（1～11）踏まえて考察 主に社会参加から考える
15	まとめ	ソーシャルインクルージョン	上記を（1～14）踏まえて考察

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：8時間以上）

- ・在宅学修15のポイントを踏まえて振り返り学修を行ってください
- ・上記は、可能な範囲でノートにまとめスクーリング時に持参してください
- ・スクーリングでは、事前学修内容を踏まえてディスカッションを行います

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障害者と障害者福祉	オンデマンド
2	障害者の生活	オンデマンド
3	障害者福祉の基本にあるもの	オンデマンド
4	マイノリティと差別や障害	オンデマンド
5	事例から考える障害者福祉①	オンデマンド
6	事例から考える障害者福祉②	オンデマンド
7	オンデマンドスクーリングの振り返り	対面
8	医学・社会・生活モデルから考える障害者福祉（事例含）	対面
9	医学・社会・生活モデルから考える障害者福祉（事例含）	対面
10	まとめ・確認	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：8時間）

- ・スクーリング時に配布した資料を全て読み返し、必要に応じてノートにまとめてください
- ・その際には、参考図書等を用いて内容の確認・追記を行うようにしてください
- ・スクーリングで学んだ内容は、自分の言葉で他者に伝えられるように、言葉にして繰り返し学修してください
- ・上記を終えた後にレポート学修に取り組んでください

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（20%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（60%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『障害者福祉』中央法規、2021
- 2) 福島 智『ぼくの命は言葉とともにある 9歳で失明18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと』致知出版社、2015
- 3) 伊是名 夏子『ママは身長100cm』ハフポストブックス、2019
- 4) 涌井 学『前科者』小学館文庫、2021

2023～	精神保健福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	大島 巖	

■授業のテーマ

精神障がい当事者のリカバリー実現を支えるソーシャルワーク実践
～支援環境開発を進める実践と研究の方法～

■授業の目的

- ・近年、精神障がいのある人たちへの支援目標として世界的に重視される「リカバリーの実現」に対して、有効なソーシャルワーク実践の方法を、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から検討します。その方法は、世界的な脱施設化の潮流の中から実践的に生み出され、実践研究の助けも得ながら発展したことが知られています。
- ・本授業では、当事者が望むリカバリーゴールの種別ごとに（退院・地域移行、働く、社会的役割を持つ、仲間を作る、家族から自立する等）、実践的な積み重ねと実践研究に基づく成果（エビデンス）を提示します。その上で、それぞれの実践現場にどのように適用すれば良いのか、受講生と共に討議しながら、実践力とともに研究力をも身に付けることを目指します。

■授業の到達目標

- ①ソーシャルワーク実践の支援ゴールとしての福祉対象者が望む「リカバリー実現」はどのようなものなのか、どのように捉えたら良いのかを理解し、説明できる。
- ②精神障がい当事者が希望する支援ゴール、リカバリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）は何かを、国際的な成功例（EBP プログラム等）の経験から整理し、説明できる。
- ③「リカバリーの実現」を支える支援環境開発の方法を、脱施設化をはじめとした取組みの歴史から学ぶと共に、実践研究の方法である「プログラム開発と評価」の方法をどのように活用すれば良いのかを理解し、それぞれの実践現場に適用することができるようになる。

■授業の概要

ソーシャルワーク（SW）実践の支援ゴールとしての「リカバリーの実現」はどのようなものか、近年のリカバリーに関わる実践と研究の取組みから整理します。その上で、「社会参加・地域参加」レベルでのリカバリー実現に注目して、退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなどのリカバリーゴールの種別ごとに、リカバリーの実現に有効な SW 実践の方法を検討します。

SW 実践の方法として、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から、《1》個別の支援事例の経験に基づいて検討するとともに、《2》「プログラム開発と評価」の方法に対応させて理解します。《2》については、可能な限り国際的な成功例（EBP プログラム等）の経験などを用いて整理し提示します。

以上に関する教材は、必読書の大島（2016）と、それに対応した講師提供資料、およびオンデマンド型の動画教材を用います。

在宅学修15ポイントに対応させて、オンデマンド型で動画配信します。在宅学修課題を深めるために、3回ほど同時双方向リモート授業による質疑応答、意見交換のスクリーニング授業を行います。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴールの種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を1つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」(効果的援助要素)については必ず言及するようにしてください。同時に他のリカバリーゴール種別への取組みから抽出された「支援の要素」(効果的援助要素)についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。	【提出期限】 ☐ 対面（双方向）授業1週間前まで ☐ 対面（双方向）授業前日まで ☒ その他 （3回目対面（双方向）授業の1週間前まで）
課題 2 (事後課題)	この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。	【提出期限】 ☐ 対面（双方向）授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 （ ）

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



学修テーマの各論に当たる在宅学修15のポイント第6項～第14項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。



学修テーマの総論に当たる在宅学修15のポイント第1項～4項、第14～15項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	SW 実践の支援ゴールとしてのリカバリー	成果としてのリカバリー(地域参加)、医療機関でできること、リカバリーの「壁」	当事者が《希望する支援ゴール》の多くは、「参加」に関わり、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒講師提供資料・テキスト1章3章・オンデマンド教材を使用
2	精神障がいのある人が抱えるニーズの現状	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い集団の現状と課題	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い2 集団の現状と課題⇒テキスト3章・オンデマンド教材を使用
3	リカバリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」とは何か	国際的成功例、ICF 参加、ICF 環境整備、「希望」	希望する支援ゴールの多くは、「参加」に関わる、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒テキスト2章・3章・4章・オンデマンド教材を使用
4	当事者・実践家が参画する協働型「プログラム開発と評価」の方法	プログラム開発と評価、当事者・実践家参画型評価、効果モデルの共創	リカバリー志向サービスの共創の観点から、当事者・実践家協働型「プログラム開発と評価」の方法論を理解する⇒テキスト4章・オンデマント教材を使用

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
5	脱施設化と地域生活支援～直接サービスが伴うケアマネジメントの必要性～	脱施設化とケアマネジメントの関係、日本に求められる脱施設化とケアマネジメントの条件	脱施設化の定義と歴史を理解する、欧米の脱施設化の発展と、ケアマネジメントの誕生・発展の関連を理解、日本に集中型・包括型ケアマネジメントを導入するための課題を整理⇒テキスト5章・オンデマンド教材使用
6	集中型・包括型ケアマネジメント：ACT	脱施設化、回転ドア現象の防止、包括的ケアマネジメント、モデル実践度尺度	ACTと脱施設化の関係、リカバリーの観点からの評価、日本での実施・普及とSWの役割⇒テキスト6章・オンデマンド教材を使用
7	援助付き住居プログラム～「まずは住居を」プログラムの可能性～	援助付き住居、住居の自己選択、基本的人権としての住居	住居支援において配慮すべき援助、「まずは住居を」プログラムの意義と効果の理解、「まずは住居を」プログラムを精神病院長期入院者の退院促進にどう活用するか⇒テキスト7章・オンデマンド教材を使用
8	退院促進支援への取り組みの現状と課題：医療とケアサービスの連携・協働	退院促進支援事業、地域移行定着支援事業、医療機関と地域事業所の連携・協働	退院促進支援事業の概要と課題、退院促進支援事業がより有効に機能するために必要なことや課題を、ACTや「まずは住居を」から考察⇒テキスト8章・オンデマンド教材を使用
9	家族ケアの必要性と限界～家族支援プログラムのあり方①	家族ケアと家族支援、家族アセスメント、家族の感情表出、「生活者としての家族」「援助者としての家族」	精神障がいのある人の家族の置かれている現状、家族ケアの限界とニーズ、家族支援を行うための前提条件、「援助者としての家族機能」と「生活者としての家族機能」のそれぞれに対する支援の必要性⇒テキスト9章・オンデマンド教材を使用
10	家族支援の方法と有効性～家族支援プログラムのあり方②	家族心理教育、医療機関における心理教育の位置、家族支援の全体プロセス、家族ケアマネジメント	家族心理教育について理解、心理教育が注目された背景と導入の意義、特に医療機関における心理教育の位置と役割、家族支援の全体的プロセスと家族心理教育の位置⇒テキスト9章・オンデマンド教材を使用
11	ひきこもり理解・支援の実際	社会的ひきこもりの定義、ひきこもりからのリカバリーゴール、ひきこもりに対する支援方策	精神障がいをもつ人たちのひきこもり支援のニーズと理解、精神障がいをもつ人のひきこもりの方に対する支援の現状、ひきこもりの方に対する今後の支援方策⇒テキスト10章・オンデマンド教材を使用
12	就労支援の新しい方向性～IPS援助付き雇用プログラムへの注目	リカバリーゴールとしての一般就労、IPS援助付き雇用の有効性	精神障がいをもつ人たちの就労ニーズと雇用の現状、精神障がいをもつ人たちへの適用状況を理解、IPS援助付き雇用の特徴と意義、効果を理解する⇒テキスト11章・オンデマンド教材を使用
13	ピアサポート、当事者サービス提供者、セルフヘルプグループ	ピアサポートの有効性、ピアサポート活動とのパートナーシップの形成	ピアサポートのニーズ、ピアサポートの意義と価値、効果、ピアサポートと当事者サービス提供者のさまざまな類型、ソーシャルワーカーとして、ピアサポートとどのようにパートナーシップを築いて行くか⇒テキスト12章・オンデマンド教材を使用
14	EBPプログラムと支援環境開発アプローチ	エビデンスレベル、治療ガイドライン、実施・普及ツールキット	リカバリーゴール達成に有効な国際的な標準モデルの意義、そのように効果モデルを開発するか、実施・普及の進め方⇒テキスト13章・オンデマンド教材を使用
15	支援環境開発のための方法とソーシャルワークの役割	ソーシャルワークにおける支援環境開発の意義と役割、障害者運動、福祉実践の国際的連携と協働	支援環境開発とソーシャルワークの関係、障がい者運動・セルフヘルプグループの意義、支援環境開発のために、当事者・当事者団体とどのようにパートナーシップを築くか、支援環境開発のための国際的連携と協働の必要性⇒テキスト14章・オンデマンド教材を使用

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：40時間以上）

あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴール種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を1つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）については必ず言及するようにしてください。同時に他のリカバリーゴール種別へ

の取組みから抽出された「支援の要素」(効果的援助要素)についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。

レポートは、A4用紙2～3枚にまとめて、第3回スクーリングの前迄に事前提出をしてください(8/3迄)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	精神障害当事者のリカバリー実現を支えるソーシャルワーク実践～総論と授業の進め方	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの1-2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの3-4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修15ポイントの1-4に関する解説と質疑応答	リモート授業 (6/1(日)に1コマ(9:00～10:30)開催)
5	在宅学修15ポイントの5-6の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの7-8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの5-8に関する解説と質疑応答	リモート授業 (6/29(日)に1コマ(9:00～10:30)開催)
8	在宅学修15ポイントの9-11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
9	在宅学修15ポイントの12-15の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの9-15に関する解説と質疑応答	対面・リモート授業 (8/10(日)に1コマ(9:00～10:30)開催)

(3) スクーリング事後課題(学修時間目安:30時間以上)

この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート(25%)、課題2レポート(25%)
- ・スクーリング(50%)

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 大島巖著『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ:精神保健福祉への適用例から』有斐閣、2016年
- 2) 田村綾子編著『社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規、2019年
- 3) 大島巖、奥野瑛子、中野敏子編『障害者福祉とソーシャルワーク』有斐閣、2001年
- 4) 大島巖編『ACT・ケアマネジメント・ホームヘルプサービス～精神障害者地域生活支援の新デザイン』精神看護出版、2004年

2025～医療福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	狩野 俊介	

■授業のテーマ

「医療福祉（ヘルスケア）」領域におけるソーシャルワーク理論に関連する実践と研究。

■授業の目的

医療福祉とヘルスケアの関連を理解し、それに求められる支援を展開する上で、ソーシャルワーク理論とともにさまざまな諸理論に基づき患者及びその家族、さらにはサービス提供者である専門職を理解する視点を深め、実践上のかかわりを行えるようになる。

■授業の到達目標

- ・医療福祉とヘルスケアの関連について理解し、説明できる。
- ・医療福祉にかかる理論の成り立ち、主要概念、方法論等について説明できる。
- ・医療福祉にかかる理論およびアプローチを踏まえて、自らの実践を省察、評価し、理論と実践の往還的な理解と説明が行える。

■授業の概要

「医療福祉」領域におけるソーシャルワークとは、Medical Social Work、Social Work in Hospitals、Social Work in Healthcare、Social Work in Health Service などと表現されている。医療は言うまでもなく健康と関連する領域であり、近年では人々の健康は生物学的要因だけでなく、社会的決定要因（Social determinants of health）が関連することが示されている。こうした観点から、ここでは健康を視野に入れた「医療福祉」としてのヘルスケアにおけるソーシャルワークのあり方を考える。つまり、医療、健康、ストレス、安全をキーワードにヘルスケアにおける多様な側面における諸課題・諸理論をもとにして、今後の「医療福祉」領域におけるソーシャルワークの意義や可能性について考察する。加えて、こうしたソーシャルワーカーによる実践を科学するための方法についてもふれていく。

■在宅学修

（1）レポート課題

課題 1	医療ソーシャルワークの歴史的展開とともに、今日の医療福祉領域で求められるソーシャルワーク実践とその背景について論じてください（4,000字程度）。	【提出期限】 ☐ 対面授業1週間前まで ☒ 対面授業前日まで ☐ その他 （ ）
課題 2 （事後課題）	授業で取り上げた医療福祉及びヘルスケアに関する諸理論・諸概念を取り上げて説明した上で、自らのソーシャルワーク実践との関連、実践における発展的な展開について考察しなさい（4,000字程度）。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 （ ）

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

在宅学修15のポイントを参考に、医療福祉の理解、医療ソーシャルワークの歴史といった基礎的な理解を踏まえつつ、今日のソーシャルワークを取り巻くどのような環境の影響により、医療福祉領域で求められる役割も変化してきていると考えられるのかについて考察してください。

課題2 アドバイス

近接領域における諸概念や方法論を、自らの実践（研究を含む）に引き寄せて理解し、その応用可能性について検討する能力は重要です。そうしたスクリーニングで内容を踏まえ、自身の実践（研究を含む）においてどのように捉え直し、応用することができるかなどを報告してください。なお、レポート作成時に用いる学びの内容は複数あげても良いです。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	医療福祉領域におけるソーシャルワーク	医療福祉、健康	医療福祉とヘルスケアの概念の捉え方を整理し、医療・保健・福祉の関連からソーシャルワークのあり方について学修する
2	医療ソーシャルワークの歴史と現状	MSW (Medical Social Work)、歴史	日本における医療ソーシャルワークの歴史と現状について学修する
3	医療ソーシャルワークの歴史(諸外国)	家庭訪問員、アーモナー	諸外国（アメリカ、イギリス）における医療ソーシャルワークの歴史と現状について学修する
4	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワーク①（身寄り問題への支援）	身寄り問題、医療同意	疾病に伴って生じる生活課題と医療ソーシャルワーク実践における視点と課題について学修する
5	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワーク②（スティグマの理解）	スティグマ	さまざまな疾病に伴って生じるスティグマについて理解し、医療ソーシャルワークとの関連から学修する
6	医療福祉領域で働く人のメンタルヘルス	バーンアウト、ワークエンゲイジメント	医療ソーシャルワーカー等の医療専門職が実践上で抱えるストレス、バーンアウト、ワークエンゲイジメントについて学修する
7	患者・家族と医療ソーシャルワーク	病むこと、当事者の知、エンパワメント	疾病に伴って生じる患者、家族における役割葛藤と、経験による専門家としてのナラティブに着目したエンパワメントについて学修する
8	医療福祉領域における意思決定支援①（意思決定）	意思決定支援、インフォームド・コンセント、SDM (Shared Decision Making)	医療福祉領域における患者の意思決定支援としての支援つき意思決定、代理代行決定を理解し、共同意思決定 (Shared Decision Making : SDM) の方法について学修する
9	医療福祉領域における意思決定支援②（事前指示）	ACP (Advance Care Planning)、クライシス・プラン	医療福祉領域において用いられている事前指示 (Advance Directive)、リビングウィル (Living Will)、アドバンスケアプランニング (Advance Care Planning : ACP)、クライシス・プランの歴史と方法について学修する
10	ヘルスケア①（健康と健康生成論）	健康生成論、ストレス対処力	健康生成論とストレス対処力 (Sense of Coherence : SOC) の概念について理解する
11	ヘルスケア②（心的外傷後成長）	心的外傷後成長、レジリエンス	疾病等によるさまざまな困難を経験した後にみられる患者や家族の成長に関する概念として、心的外傷後成長 (Post Traumatic Growth : PTG) とレジリエンスについて理解する
12	ヘルスケア③（健康とストレス対処）	ストレス対処、認知行動療法、予防	認知行動療理論を基盤にしたストレス対処、心理教育等について学修する
13	ヘルスケア④（健康格差と社会的処方）	健康格差、社会的処方、ソーシャル・キャピタル	健康格差が生じる背景、社会的処方、ソーシャル・キャピタルについて理解し、その対策について学修する
14	安全・安心のためのセーフティプロモーション	安全、セーフティプロモーション	人々の安全と安心のための地域づくりの方法としてのセーフティプロモーションの基本的な考え方を理解し、ソーシャルワークとの関連について学修する

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
15	ソーシャルワークの効果測定とヘルスサービスリサーチ	事例研究、効果測定、サービス評価	医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践評価としての事例研究、医療福祉サービスの評価方法について学修する

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (予習) (学修時間目安：35時間)

- ・スクーリングによる対面授業までに「在宅学修15のポイント」の2～6に対応したオンデマンド教材を視聴し、受講する形をとる。オンデマンド教材を視聴後、再度学修内容（キーワード）について理解を深められるよう整理してください。
- ・レポート課題の「課題1」を提出してください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	医療福祉概念と医療福祉領域におけるソーシャルワークについて	リモート
2	医療ソーシャルワークの歴史と実際（学修テーマ2～3）についての講義とミニレポートの作成	オンデマンド
3	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワークについて（学修テーマ4～5）の講義とミニレポートの作成	オンデマンド
4	医療福祉領域で働く人のヘルスケアについて（学修テーマ6）の講義とミニレポート作成	オンデマンド
5	患者、その家族から学ぶ医療ソーシャルワークのあり方（学修テーマ7）についての講義とオンデマンド授業内容についての質疑応答	対面
6	医療福祉領域における意思決定支援について（学修テーマ8）の講義	対面
7	医療福祉領域における事前指示について（学修テーマ9）の講義	対面
8	健康の理解と健康に関連した諸概念について（学修テーマ10～11）の講義とオンデマンド授業内容についての質疑応答	対面
9	健康に関する個人と環境へのアプローチについて（学修テーマ12～13）の講義	対面
10	医療福祉領域における効果測定とサービス評価について（学修テーマ14～15）の講義	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：35時間以上)

- ・レポート課題の「課題2」について作成し、提出してください。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（20%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（60%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 近藤克則『健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか（第2版）』医学書院、2022
- 2) 杉山明信、保正友子、檜木博之編著『医療ソーシャルワーカーのストレスマネジメント』中央法規、2020
- 3) 中山和弘『これからのヘルスリテラシー 健康を決める力』講談社、2022
- 4) 黒岩晴子編著『新版 人と社会に向き合う医療ソーシャルワーク』日本機関紙出版センター、2020
- 5) 狩野俊介・野村照幸編著『危機がチャンスに変わる クライシス・プラン入門 精神医療・保健・福祉実践で明日から使える協働プラン』中央法規出版、2024
- 6) 山崎喜比古・吉井清子監訳『アaron・アントノフスキー著 健康の謎を解くストレス対処と健康保持のメカニズム』有信堂、2001
- 7) 田宮菜奈子・小林康毅編『ヘルスサービスリサーチ入門 生活と調和した医療のために』東京大学出版、2017

2023～	医療福祉研究Ⅱ (地域連携・多職種連携)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	中村 令子	

■授業のテーマ

医療・福祉・保健における職種間の連携・協働を推進する力を養うために必要なスキルを身につけ、自身のこれまでの他職種との連携協働を評価することで、医療・福祉・保健におけるそれぞれの専門分野の知識や技術を尊重しながら、関係職種間が連携および協働して、地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるための知識、技術、態度を検討する。

■授業の目的

1. 専門職間の連携・協働が求められている背景を理解する。
2. 連携・協働のための戦略や理論を理解する。
3. 脳血管障害後遺症者の家庭復帰までの多職種連携の実践を理解する。
4. 専門職間の連携・協働に価値をおき、他職種の意見を尊重する態度を修得する。
5. 自職種における職種間、組織間の協働実践の改善策を考察する。

■授業の到達目標

1. 多職種連携の意義を述べることができる。
2. 連携・協働のために備えるべき能力を述べることができる。
3. 自身の専門領域で関わる他の専門職の役割を述べるができる。
4. 当事者および多職種連携の視点から自職種の協働実践の改善策を述べるができる。

■授業の概要

少子高齢化、医療費・介護保険費の負担増加といった社会構造的課題、疾病や障害の重症化や生活課題の重複といった対象者の課題、更に個人の健康価値観の多様化もあり、多職種の連携・協働を必要とする事例が増加している。総論として、多職種連携が求められるようになった背景と多職種連携に必要なコミュニケーションやファシリテーションの技術を理解する。各論として、脳血管障害患者の医療・福祉領域での多職種連携や各自の専門領域の多職種連携に関わる研究の分析から、当事者および多職種・多機関の視点で実践を振り返る。それにより、専門分野の知見を尊重しながら、関係職種間の連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるための知識、技術、態度を修得する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1 (事前課題)	①自職種の多職種連携に関わる実践、課題 ②各自の実践を改善するための対策 ①②について、スライドを作成する。	【提出期限】 ☐ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☒ その他 (対面授業当日に持参)
課題 2 (事後課題)	①他の発表からの学び、②他の発表や質疑をもとに再考した各自の実践を改善するために多職種連携・地域連携について今後取り組みたいこと。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（２）アドバイス

課題1 アドバイス

授業で学んだコミュニケーション・ファシリテーションの基本や自職種での実践・研究を参考として、多職種連携に関する実践を振り返り、対策を検討してください。①では、これまでの実践や課題を多領域の人にも分かりやすく説明し、②では、理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べてください。事例を用いる時は、個人が特定されない表現で記載してください。

課題2 アドバイス

①では、他の発表や質疑から気づいたこと、②では、課題1をさらに検討し、多職種連携・地域連携に関して今後取り組みたいことを、理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べてください。

（３）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論① 多職種連携が求められる背景	保健・医療・福祉施策 多職種連携の必要性	保健・医療・福祉施策で多職種連携が求められるようになった背景を理解し、各自の専門領域での多職種連携はどのように行われおり、何故、それが必要とされるのかを考える。
2	総論② 多職種連携とは	職種理解（他職種と多職種） コミュニケーション チーム医療と多職種連携 連携・協働のための情報共有	多職種連携の目的、意義、方法を理解する。各自の専門領域の情報収集の枠組みを他職種の人に説明できるようにし、異なる職種間の情報共有の必要性と方法を理解する。
3	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	ファシリテーション チームビルディング 協働型チーム コミュニケーション技術	必読図書の序章・第1章・第2章を読んで、自身の実践を振り返る。
4	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル	問題の原因分析 合意形成	必読図書の第3章、第4章を読んで、自身の実践を振り返る。
5	協働する力③ ファシリテーションの実践	ケーススタディ	必読図書の第5章を読んで、自身の実践を振り返る。
6	多職種連携の実践① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	脳血管障害 リハビリテーション	急性期から回復期の脳血管障害の治療・リハビリテーションに関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
7	多職種連携の実践② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	脳血管障害 訪問看護	脳血管障害後遺症者の在宅療養に関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
8	多職種連携の実践③ 自身の専門領域に関わる職種の理解	自身の専門領域に関わる多職種	自身の専門領域に関わる職種の役割と機能を理解し、連携・協働の改善策を検討する。
9	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	これまでの学びを自身の実践に生かすための検討	発表に向けて、これまでの学びを整理し、自身の論点を明確化する。
10	多職種連携研究② 各自の専門領域で行われている研究	多職種連携研究	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域での多職種連携に関する研究を調べる。
11	多職種連携研究③ 各自の実践の紹介	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域の実践を紹介する。
12	多職種連携研究④ 各自の実践を改善するための対策	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、本授業の学びから、各自の実践を改善するための対策を検討する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
13	多職種連携研究⑤ プレゼンテーション	実践発表	①自職種の多職種連携に関わる実践、課題、 ②各自の実践を改善するための対策を発表する。
14	多職種連携研究⑥ 他の発表の検討	他職種の理解	レポート課題2に向けて、職種や課題による違いや共通すること、取り入れられる対策を検討する。
15	まとめ 多職種連携の課題と対策	多職種連携の課題・対策	レポート課題2に向けて、今後の自職種の多職種連携の取り組みを検討する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：10時間程度)

- ・①自職種の多職種連携に関わる実践、課題、②各自の実践を改善するための対策について、対面授業での発表原稿と配布用資料を作成し、発表準備を行ってください。スライドと配布用資料を持参してください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	総論 多職種連携が求められる背景・様々なチーム・情報共有	オンデマンド
2	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	オンデマンド
3	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル・ケーススタディ	オンデマンド
4	多職種連携の実践① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	オンデマンド
5	多職種連携の実践② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	オンデマンド
6	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	リモート
7	多職種連携研究② 発表：各自の専門領域の研究の動向	対面
8	多職種連携研究③ 発表：各自の専門領域の実践事例の紹介	対面
9	多職種連携研究④ 発表：各自の実践を改善するための対策	対面
10	まとめ 多職種連携の課題と対策	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：10時間程度)

- ・他の発表からの学びを生かして、各自の専門領域での実践を改善するための対策を再考する。

■評価の方法・基準

- ・課題1 (30%)、プレゼンテーション・質疑 (40%)、課題2 (30%)
①問題意識を持って自らの実践を振り返り、実行可能性のある改善策を検討しているか。②分かりやすく他者に伝えられているか。③他職種の意見を尊重する態度が示されているかを評価の視点とします。

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 中村誠司著 『対人援助職のためのファシリテーション入門 - チームの作り方・会議の進め方・合意形成のしかた』 中央法規、2017年

- 2) 北島政樹編 『医療福祉をつなぐ関連職種連携 - 講義と実習にもとづく学修のすべて』 南江堂、2021年
- 3) 伊藤健司 土谷幸己 竹端寛 『「困難事例」を解きほぐす - 多職種・多機関の連携に向けた全方位型アセスメント』 現代書館、2021年
- 4) 藤原佳典監 倉岡正高・石川貴美子編著 『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門 - 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法』 ミネルヴァ書房、2021年
- 5) 奥宮暁子 金城利雄 石川ふみよ編 『ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護』 メディカ出版、2022年

2025～	地域福祉研究			単位数	履修方法	配当学年
				2単位	SR	1・2年
				担当教員	大石 剛史	

■授業のテーマ

地域福祉の歴史と理論を踏まえたうえで、現在進められている地域共生社会の実現の意義と、実践現場で用いられるコミュニティソーシャルワークなどの方法論について学ぶ

■授業の目的

- ・ 地域福祉が求められてきた歴史的背景を理解し、現代社会における地域福祉の意義と、それらをふまえたこれからの地域福祉のあり方を考察する。
- ・ 現代の地域福祉の課題と、それを支える諸制度、方法論等を踏まえたうえで、地域福祉の具体的な実践方法について理解する。

■授業の到達目標

1. 地域福祉の意義と必要性について歴史的背景や現代の課題などを理解し、考察できる。
2. 地域福祉に関係する法制度、組織・機関の役割、援助技術について理解し、説明できる。
3. 地域福祉を進めていく際の行財政の仕組み、実施体制等について理解し、説明できる。
4. 地域福祉を実践する方法論を理解し、地域福祉課題に合わせた地域福祉実践の方法を考察できる。
5. 地域共生社会の意義に基づいて、それを実現するための制度、多職種連携による支援のあり方、住民主体のまちづくり、それらのガバナンスの方法を理解し、地域性に合わせた施策のあり方を考察できる。

■授業の概要

地域福祉は、社会福祉の理念や課題の変化と共に、歴史的により重視されてきた概念・分野である。人々の生活の場である地域社会で、人々が様々な人と関わり、助け合いながら暮らすことは、人間の豊かな生活にとって重要なことである。一方で現代社会は、地域の関係性の希薄化が進み、社会的孤立の課題が増大している。その中で多様な生活困窮の課題が顕在化し、それに対してどのような支援や新たな地域づくりを行うかという、地域共生社会づくりの課題が浮上している。本科目では、このような現状に対し、地域福祉がこれまでどのような背景で求められてきたかを理解し、検討されてきた地域福祉の理念・理論・方法論を踏まえつつ、これからの地域福祉を進める施策・支援のあり方、地域共生社会づくりのあり方を考察する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	現代の地域福祉の課題（引きこもり支援、社会的孤立等）を1つテーマとして設定し、それらの課題に対し、現在どのような施策や支援が行われているか、その効果は出ているか、課題は何か等、具体的な事例等を示しつつ具体的に論述しなさい。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 (対面授業当日まで)
課題 2 (事後課題)	コミュニティ・ソーシャルワークの実践による包括的な支援のあり方について、自地域の地域福祉実践の事例、または自身が関わった支援事例を題材に、ミクロ、メゾ、マクロレベルでの実践の展開を意識して、その一連の支援の展開過程のあり方を述べなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（２）アドバイス

課題1 アドバイス

- ・まずそれぞれの地域福祉課題の現状等を既存データ等を使って正確に把握しましょう。
- ・次にそれらの地域福祉課題がどのような背景により発生しているかを論理的に論述しましょう。
- ・それぞれの課題に対して行われている具体的な支援事例を調べ、その支援が何を目的に（どのような効果を狙って）実施されているか、実際にどのような効果をあげているか、課題があるとすれば何かをそれぞれ論理的に論述しましょう。

課題2 アドバイス

- ・自身の暮らす（勤める）自治体の地域福祉実践事例について、資料等を調べて把握しましょう。または、自身の関わった実践事例について振り返りを行いましょう。
- ・講義で学んだコミュニティ・ソーシャルワークのミクロ-メゾ-マクロにまたがる展開過程を復習しましょう。それをふまえて、自地域や自身の事例をコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程に合わせて分析し、その展開過程を考察して論理的に論述しましょう。

（３）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	地域福祉の歴史①	イギリスにおける地域福祉の萌芽	地域福祉の歴史として、イギリスでの萌芽期の取り組みを理解する
2	地域福祉の歴史②	コミュニティ・オーガニゼーションの歴史	アメリカを中心に発展したコミュニティ・オーガニゼーション理論を理解する
3	地域福祉の歴史③	イギリスのコミュニティケア改革	戦後イギリスのコミュニティケア改革を理解する
4	地域福祉の歴史④	日本の地域福祉の歴史① 戦前～1980年代まで	英・米から影響を受けた戦前～1980年代までの日本の地域福祉の歴史を理解する
5	地域福祉の歴史⑤	日本の地域福祉の歴史② 1990年代～現代まで	1990年代～現代までの日本の地域福祉の歴史的展開を理解する
6	地域福祉の現状と課題	地域包括ケアシステムから地域共生社会へ	地域福祉の現状を踏まえ、地域包括ケアシステム、地域共生社会の意義を理解する
7	地域福祉の理論と方法①	日本の地域福祉の理論	岡村重夫、右田紀久恵、三浦文夫、永田幹夫、大橋謙策などの地域福祉理論を理解する
8	地域福祉の理論と方法②	コミュニティ・ソーシャルワークの理論と方法	地域福祉の包括的方法論として発展したコミュニティ・ソーシャルワークを理解する
9	地域福祉の理論と方法③	住民主体の地域福祉と福祉教育	住民主体の地域福祉の意義と、主体形成を図る福祉教育の理論と方法を理解する
10	地域福祉の理論と方法④	地域福祉計画の意義と策定手法	地域福祉計画の意義とその策定方法について理解する
11	地域福祉の理論と方法⑤	社会資源開発の理論と方法	社会資源開発に関する理論や方法を学ぶ
12	地域福祉の具体的な実践過程①	社会的孤立・引きこもり支援における地域福祉実践	社会的孤立・引きこもり支援における地域福祉実践過程を理解する
13	地域福祉の具体的な実践過程②	多文化共生ソーシャルワークと地域福祉実践	在留外国人等を支援するための地域福祉実践過程を理解する
14	地域福祉の具体的な実践過程③	災害ソーシャルワークと地域福祉実践	災害時及び災害に備えた地域福祉実践過程を理解する

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	まとめ～地域共生社会を目指して～	地域共生社会の実現とケアリングコミュニティ	地域共生社会を実現するためのケアリングコミュニティの理論を理解する

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安: 35時間)

レポート課題「現代の地域福祉の課題(引きこもり支援、社会的孤立等)を1つテーマとして設定し、それらの課題に対し、現在どのような施策や支援が行われているか、その効果は出ているか、課題は何か等、具体的な事例等を示しつつ具体的に論述しなさい。(4,000字程度)

- ・まず、地域福祉の課題について、指定テキストや既存の統計データを調べ、正しい知識を得ること。(10時間)
- ・その後、自身の設定した地域福祉課題に対して現状どのような取り組みが行われているか、テキスト、インターネット等を活用した論文等の検索を通して調べ、その現状と課題を把握すること。(15時間)
- ・それらを踏まえ、地域福祉課題に対する取り組みの現状と課題について論理的に論述すること。(10時間)

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	地域福祉の歴史①イギリスにおける地域福祉の萌芽	オンデマンド
2	地域福祉の歴史②コミュニティ・オーガニゼーションの歴史	オンデマンド
3	地域福祉の歴史③イギリスのコミュニティケア改革	オンデマンド
4	日本の地域福祉の歴史①戦前～1980年代まで	オンデマンド
5	日本の地域福祉の歴史②1990年代～現代(地域共生社会)まで	オンデマンド
6	地域福祉の理論と方法①地域福祉理論とコミュニティ・ソーシャルワーク	オンデマンド
7	地域福祉の理論と方法②福祉教育と地域福祉計画、社会資源開発	対面
8	地域福祉の具体的実践過程①社会的孤立、ひきこもり支援	対面
9	地域福祉の具体的実践過程②多文化共生、災害ソーシャルワーク	対面
10	地域福祉研究まとめ 地域共生社会の実現とケアリングコミュニティ	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安: 35時間)

レポート課題「コミュニティ・ソーシャルワークの実践による包括的な支援のあり方について、自地域の地域福祉実践の事例、または自身が関わった支援事例を題材に、ミクロ、メゾ、マクロレベルでの実践の展開を意識して、その一連の支援の展開過程のあり方を述べなさい。」(4,000字程度)

- ・まず自身の暮らす(勤める)自治体の地域福祉実践事例について、資料等を調べて把握する。または、自身の関わった実践事例について振り返りを行う。(10時間)
- ・次に講義で学んだコミュニティ・ソーシャルワークのミクロ-メゾ-マクロにまたがる展開過程を復習する。それをふまえて、自地域や自身の事例をコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程に合わせて分析する。(10時間)
- ・上記の分析に基づき、自分が考えるコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程を事例にそくして考察して論理的に論述する。(15時間)

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート(25%)、課題2レポート(25%)
- ・スクーリング(50%)

(特に課題レポートは正確な知識を踏まえた上での、自身独自の論述が出来ているかどうかの評価の重要な指標となる)

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊１）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『地域福祉と包括的支援体制（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座）』 中央法規、2021年
- ２）公益社団法人日本社会福祉士会 『地域共生社会に向けたソーシャルワーク：社会福祉士による実践事例から』 中央法規、2018年
- ３）日本地域福祉研究所（監修）、中島修、菱沼幹男（編集）『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』 中央法規、2016年
- ４）山崎亮著 『コミュニティデザインの源流 イギリス篇』 太田出版、2016年
- ５）大石剛史著 『ケアリングコミュニティの理論：社会福祉の新しい地平を拓く地域福祉のメタ理論』 学文社、2024年

2023～福祉経営・マネジメント研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	高橋 誠一	

■授業のテーマ

社会福祉法人マネジメントの規範的実証的検討

■授業の目的

社会福祉法人の社会的役割を理解し、福祉経営の理解を深める。さらに、その研究方法を理解する。

■授業の到達目標

- ・社会福祉法人の成立過程を理解したうえで、社会福祉法人の存在意義を説明できる。
- ・社会福祉法人制度の改革の背景を理解したうえで、社会福祉法人の新たな役割を説明できる。
- ・社会福祉法人の非営利性、公益性、先駆性、公平性について、具体的に説明できる。
- ・社会福祉法人のマネジメントについて、研究課題を見出し、調査研究することができる。

■授業の概要

本講義では、社会福祉法人のマネジメントについて、社会福祉法人制度の理解に基づき、社会福祉の視点からその公益性と先駆性を経営に生かす方法を学ぶ。社会福祉法人のマネジメントには、法人のガバナンスと機関のマネジメントに関わるテーマと社会福祉法人が行う事業や活動に関するテーマがあり、また、他の法人形態との比較における特徴をどのようにとらえるのか、歴史的、理論的、実践的な多面的検討が必要であるので、これらも含め理解を深めていく。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	社会福祉における社会福祉法人の存在意義を論じなさい。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	福祉人材確保、福祉人材育成の取り組みを調べ、効果的と考えられる方策を論じなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



社会福祉法人の成立過程から、社会福祉法人制度改革を経て、その都度社会福祉法人の存在意義が再検討されてきました。どのような課題に対して、どのような改革が行われてきたのかを明らかにする中で、社会福祉法人の存在意義を論じてください。

福祉人材確保、福祉人材育成に関しては、国などが政策として取り組んでいます。短期的な量的確保にとどまらず、長期視点に立った（法人理念にかなった）取り組みを考えてください。さらに、様々な社会福祉法人や非営利団体、営利団体の取り組みも参考に考えてください。

（３）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉における政府の役割	行政学、社会福祉学	テキスト1) 1章を読んでください。 社会福祉における公的責任論と民間委託についても考えてください。
2	福祉サービスにおける準市場の条件	市場構造、条件整備	テキスト1) 2章を読んでください。 規制緩和、民営化の理論的背景を理解してください。
3	社会福祉法人制度の設立	社会福祉事業法、シャープ勧告、社会福祉事業、機関	テキスト1) 3章を読んでください。 歴史的背景を踏まえて社会福祉法人制度の必要性を理解してください。
4	社会福祉法人制度改革	2016年社会福祉法改正、「内留保」問題	テキスト1) 3章を読んでください。 できれば、2019年度の社会福祉法人改革についても調べてみてください。
5	イーコールフットリング論	競争条件格差、参入規制、補助金・税制優遇措置	テキスト1) 3章を読んでください。 社会福祉法人に対するイーコールフットリング論がなぜ生まれたのか考えてください。
6	社会福祉法人の公益性概念	社会福祉法人の公益性モデル	テキスト1) 4章1、2節を読んでください。 社会福祉法人における公益性の重要性を理解してください。
7	社会福祉法人のサービスの質	投入産出モデル、利用者満足	テキスト1) 4章3節、5章を読んでください。 ヒューマンサービスについても調べてください。
8	社会福祉法人の平等性	利用者負担の軽減	テキスト1) 4章4節を読んでください。 低所得者への軽減制度について具体的に調べてください。
9	社会福祉法人の社会貢献・合規性	社会福祉充実残額、貸借対照表、地域貢献事業計画	テキスト1) 4章5節を読んでください。 内部留保の計算方法とその概念を理解してください。
10	社会福祉法人設立時の特異性	競争条件格差の背景、公の支配、措置費	テキスト1) 4章6節を読んでください。 日本の戦後復興期における経済、政治状況と合わせて理解してください。
11	非営利組織としての社会福祉法人	非営利組織の経営、第三者による政府	非営利組織論から社会福祉法人の経営課題を考えてください。各自ネット等で調べてください。参考文献2) p.159-192を参考にしてください。
12	社会福祉法人の地域貢献	実践事例	実践事例を通して、社会福祉法人の社会貢献、地域貢献の具体的な取り組みを理解してください。各自ネット等で調べてください。参考文献2) p.104-158を参考にしてください。
13	社会福祉協議会のマネジメント	介護保険事業、地域福祉推進事業	社会福祉協議会と、施設運営を主とする社会福祉法人との違いを考えてください。各自ネット等で調べてください。参考文献3)を参考にしてください。
14	社会福祉法人の介護事業の経営	実践事例	介護事業経営における人材育成、組織づくりなどハード面だけでなくソフト面の取り組みについても考えてください。各自ネット等で調べてください。
15	社会福祉法人のマネジメント	講義全体のまとめ	社会福祉法人のマネジメントに関して留意すべきことをまとめてください。

■スクーリング

（１）スクーリング事前課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題1について、「アドバイス」の課題1を参考に、4,000字程度にまとめること（対面スクーリングの1週間前までに提出してください）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉法人マネジメント分析のための基礎理論 基本的な理論的枠組みと理論モデルを学ぶ	オンデマンド
2	組織の経済学における取引費用アプローチ 組織の境界と市場対組織の関係性を理解する	オンデマンド
3	企業所有論 投資家所有やその他の所有形態や非営利性などの多様性を理解する	オンデマンド
4	経営経済学の分析理論①採用基準と適任者の採用 人的資本、スクリーニング、シグナリングの理論を理解する	オンデマンド
5	経営経済学の分析理論②能力への投資と離職管理 一般的人的資本、企業特殊的人的資本の相違を理解する	オンデマンド
6	経営経済学の分析理論③組織の設計 意思決定と組織構造の関係について理解する	オンデマンド
7	経営経済学の分析理論④職務設計 テラー主義、内発的動機、チームの役割の関係について理解する	対面
8	経営経済学の分析理論⑤実績報酬 実績の評価、報酬、インセンティブの関係について理解する	対面
9	経営経済学の分析理論⑥キャリアアップとインセンティブ 昇進、キャリアアップとインセンティブの関係を理解する	対面
10	経営経済学の分析理論⑦福利厚生と雇用関係 福利厚生と雇用関係における経営問題を理解する	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：40時間）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（25%）、課題2レポート（25%）
- ・スクーリング（50%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1) 狭間直樹『準市場の条件整備 社会福祉法人制度をめぐる政府民間関係論』福村出版 2018年
- 2) 関川芳孝編『社会福祉法人制度改革の展望と課題』大阪公立大学共同出版会 2019年
- 3) 宝塚市社会福祉協議会編『市民がつくる地域福祉のすすめ方』CLC 2018年
- 4) 関川芳孝編『社会福祉法人はどこに向かうのか』大阪公立大学共同出版会 2021年
- 5) フレデリック・ラルー『ティール組織 マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現』英治出版 2018年
- 6) 全国社会福祉協議会『問い直される社会福祉法人 社会福祉法人の在り方等に関する検討会報告書を読む』全国社会福祉協議会 2014年
- 7) 全国社会福祉法人経営者協議会編『改訂増補 社会福祉法改正のポイント これからの社会福祉法人経営のために』全国社会福祉協議会 2016年
- 8) 菅田正明ほか編著『Q&A 社会福祉法人制度改革の解説と実務 平成29年度全面施行対応版』ぎょうせい2017年
- 9) ラジャー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』日本経済新聞出版社 2017年
- 10) ハンスマン『企業所有論 組織の所有アプローチ』慶應義塾大学出版会 2019年
- 11) 黒木淳『非営利組織会計の実証分析』中央経済社 2018年
- 12) 伊藤秀史ほか『組織の経済学』有斐閣 2019年
- 13) 田口聡志『教養の会計学 ゲームと実験でデザインする』ミネルヴァ書房 2020年
- 14) 新原浩朗『組織の経済学のフロンティアと日本の企業組織』日経BP 2023年

2023～	福祉経営・マネジメント研究Ⅱ (リスクマネジメント研究)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	菅原 好秀	

■授業のテーマ

福祉経営に関するリスクマネジメント研究

■授業の目的

- 1) 福祉経営に関するリスクを理解することを目的とする。
- 2) 介護事故の事例研究を通じて、リスクに対処・防止する実践力の基礎を確立させることを目的とする。
- 3) リスクマネジメントの修得を通じて、主に人間理解力と問題解決力について理解を深めることを目的とする。

■授業の到達目標

- 1) リスクマネジメントの裁判例を通じて、法的な構造について説明できる。
- 2) 典型的な福祉経営の法的権利侵害場面に対して、リスクをマネジメントする方法について説明できる。
- 3) 法と福祉分野に関する高度な専門的知識を修得することができる。
- 4) 現代社会における多様な問題を的確に分析し、説得力のある法的議論を展開する能力を修得することができる。
- 5) 先行研究、外国文献等の必要な資料を渉猟し、学術的な意義のある論文を作成するための基礎的な研究能力を修得することができる。
- 6) 所定の年限に修士に値する論文を作成することができる。

■授業の概要

- 1) 福祉経営におけるリスクの意義、概念規定について研究していきます。
- 2) 介護施設における裁判事例、障害者施設における裁判事例について研究していきます。
- 3) 利用者・家族からの苦情対応については、裁判事例を踏まえて、研究していきます。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	介護事故裁判事例を踏まえて、利用者の権利を擁護し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを考える。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	福祉経営のリスクにおいて、介護サービスにおいて介護事故が発生すると、福祉経営にどのような影響を及ぼし、また、利用者及びその家族が訴訟を提起する理由について説明し、介護事故を未然に防ぐ予防的側面と介護事故が生じた場合の事後的な対応を踏まえて、再発防止対策について具体的に論じなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、介護事故の裁判事案と判旨を、転倒、誤嚥、徘徊の事案ごとに分析し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを確認しておいてください。ソーシャルワークに関する法的な基礎知識を確認し、ソーシャルワークによる法的対応方法の実際について、事例研究などを通じて、具体的な法的な対応ができるように学修してください。

課題2 アドバイス

「在宅学修15のポイント」の転倒・誤嚥・徘徊の裁判の事案と判旨を参考に、福祉経営において、介護事故が発生するとどのような法的なリスクが存在し、また、遺族感情が福祉経営にどのような影響を及ぼすのかを説明し、利用者及びその家族への「誠実な対応・謝罪・真相究明・再発防止」の視点から、福祉経営のリスクを具体的に論じてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	福祉経営におけるリスクの意義について	福祉経営、リスクマネジメント	福祉経営の理念、リスクマネジメントの意義、概念について学修する。
2	「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」について	利用者の自己決定、施設側の管理責任	「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、利用者の自己決定権について学修する。
3	「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」について	認知症、徘徊	「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側の徘徊防止対策について学修する。
4	「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」について	見守り義務違反、記録の改ざん	「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側勝訴の判断基準について学修する。
5	「老人保健施設における転落死亡事故」について	安全配慮義務、介護方法、タテ社会	「老人保健施設における転落死亡事故」の事案と判旨を踏まえて利用者の介護方法について学修する。
6	「老人保健施設における誤嚥による死亡事故」について	食材の提供方法、監視体制、救急救命措置	「老人保健施設における誤嚥による死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側の誤嚥防止対策について学修する。
7	「特別養護老人ホームにおける誤嚥による死亡事故」について	緊急時の介護マニュアル、不顕性誤嚥	「特別養護老人ホームにおける誤嚥による死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、緊急時の介護マニュアルについて学修する。
8	「利用者の送迎中の転倒・骨折死亡事故」について	送迎、安全配慮義務	「利用者の送迎中の転倒・骨折死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、利用者の送迎の安全配慮義務について学修する。
9	「ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故」について	ボランティア、介護事故の責任の範囲	「ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、ボランティアの介護事故の責任の範囲について学修する。
10	「利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故」について	利用者トラブル、施設側の管理責任	「利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側の管理責任について学修する。
11	「災害時の利用者の行動特性と今後の施設職員の対応方法」について	災害、利用者の安全確保の方法	災害時の利用者の行動特性と今後の施設職員の対応方法について学修する。
12	介護職員による医療行為のリスクについて	医療行為、利用者の安全配慮義務	介護職員による医療行為のリスクについて学修する。
13	利用者及びその家族からの苦情とリスクマネジメントについて	苦情、リスクマネジメント、謝罪	利用者及びその家族からの苦情の対応方法を裁判事例から学修する。
14	福祉経営のリスクと介護サービスについて	福祉経営、介護サービス、リスクマネジメント	福祉経営のリスクを介護事故裁判例から学修する。介護事故裁判例を踏まえて、利用者の権利を擁護し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを考える。(「レポート課題」の課題1に相当)

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
15	介護事故に伴う遺族感情と金銭賠償について	遺族感情、金銭賠償、ナラティブ	福祉経営を脅かす訴訟が生じる原因について、介護事故に伴う遺族感情から学修する。まとめとして、介護事故を未然に防ぐ予防的側面と介護事故が生じた場合の事後的な対応を踏まえて、再発防止対策について学修する。〔レポート課題〕の課題2に相当

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：35時間以上)

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれ300～400字程度にまとめる（同時双方向または対面の演習の1週間前までに提出）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	福祉経営の概念、リスクマネジメントの意義について講義する。受講生は、リスクマネジメントの本質を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	転倒・骨折に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、転倒・骨折事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	徘徊に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、徘徊事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	誤嚥に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、誤嚥事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	精神障害者の監督責任に関する裁判事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、精神障害者の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	利用者同士のトラブルに関する介護事故事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、精神障害者の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	利用者及びその家族からの苦情について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
8	遺族感情について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
9	謝罪について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
10	介護事故の再発防止対策について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：30時間以上)

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。「在宅学修15のポイント」の15に相当。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（15%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（事前課題15%、全スクーリング50%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』（建帛社）2020年
- 2) 菅原好秀著『権利擁護と法』（建帛社）2022年
- 3) 菅原好秀著『司法と福祉』（建帛社）2023年
- 4) 菅原好秀編著『福祉ライブラリー 福祉法学 第2版』（建帛社）2020年

2023～	国際福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	萩野 寛雄	

■授業のテーマ

修士論文作成に益するべく、福祉国家、福祉国家レジューム、その類型、特に社会民主主義型福祉国家への理解を深める

■授業の目的

- ・ 国際福祉に関する知識を学ぶことで、社会福祉学全般の基礎的素養に関する専門知識習得に寄与させる
- ・ 国際福祉に関する知見を深めることで、多次元に渡る広い視点を持って対応できるようになる
- ・ 修士論文作成に向けて、福祉国家や福祉国家レジューム、その類型、特に社会民主主義型福祉国家への理解を深める

■授業の到達目標

- ①福祉国家、福祉国家レジュームの諸類型について理解し、それを他者に説明できるようになる
- ②北欧型福祉国家、社会民主主義型社会福祉レジュームについて他者に説明できるようになる
- ③フィンランド福祉国家の特徴について、他者に説明できるようになる
- ④これらの到達点を修士論文に反映できるようになる

■授業の概要

本講義では、多次元に渡る広い視点から日本の福祉を考察できるようになるため、まず福祉国家や行政国家につき、その定義や形成過程への理解を深める。その上で先進国の福祉国家、福祉国家レジュームの諸類型を理解し、特に日本の福祉とは異なるレジュームで福祉が供給される「北欧型福祉国家」について学ぶ。

エスピン・アンデルセンの著作を基に、福祉国家と福祉国家レジュームの違い、諸類型の特徴や条件、特に北欧型福祉国家について学んでいく。後半はその理解の基に、フィンランド福祉国家の特徴を学修する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	福祉国家レジュームを定義し、エスピン・アンデルセンによるその類型化を論じなさい。	【提出時期】 ☐ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☒ その他 (対面授業当日持参)
課題 2 (事後課題)	様々な福祉国家レジュームを理解して日本の制度と比較し、日本の福祉国家レジュームについてのあなたの考えを述べなさい。	【提出時期】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

- ・ オンデマンド動画教材だけでなく、それを理解するのに必要な資料を自ら集めて自主学修すること
- ・ 基本的な日本語作文作法を遵守（主語や述語の対応、句読点や意味段落での改行、一文の長さ等）
- ・ 箇条書きではなく、論理的なレポート構成に努めること

課題2 アドバイス

課題1と同じ、それに加えて；

- ・ 福祉国家、福祉国家レジュームの三類型、北欧型福祉国家、フィンランドをよく理解すること
- ・ 3種類の福祉国家レジュームを理解した上で、日本の福祉国家レジュームを外から相対的に眺めること。また、フィンランドや北欧型福祉国家の条件についてもよく理解すること

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	行政国家とは	大きな政府、小さな政府 行政国家化の進展	国家の定義や類型から始まり、夜警国家を経て大きな政府化が進んできた歴史を整理する
2	福祉国家とは① 福祉国家の定義	福祉国家とは、社会福祉とは、 社会保障とは	行政国家化によって可能となった「福祉国家」の機能とその定義を理解していく
3	福祉国家とは② 福祉国家を測る スケール	ウィレンスキー、収斂理論	福祉国家を測る方法を理解し、ウィレンスキーの収斂理論や開発独裁の問題を明らかにする
4	エスピン・アンデルセンの福祉 国家レジューム論①福祉国家レ ジューム	エスピン・アンデルセン 福祉資本主義の三つの世界、 福祉国家レジューム	福祉国家と福祉国家レジュームの違いを、その担い手に着目しながら整理する
5	エスピン・アンデルセンの福祉国 家レジューム論②脱商品化	エスピン・アンデルセン 福祉資本主義の三つの世界、 脱商品化指標	福祉国家レジューム論の概要を整理したうえで、その指標としての「脱商品化」を理解する
6	エスピン・アンデルセンの福祉国 家レジューム論③階層化	階層化指標 エスピン・アンデ ルセン、福祉資本主義の三つ の世界	脱商品化と共に福祉レジュームを類型化する指標である「階層化」を理解する
7	自由主義型福祉レジューム①脱商 品化	アングロサクソン型福祉国家レ ジューム、自由主義、脱商品化	自由主義の福祉国家レジュームにおける脱商品化について学ぶ
8	自由主義型福祉レジューム②階層 化	アングロサクソン型福祉国家レ ジューム、自由主義、階層化	脱商品化が低く、階層化が高いアングロサクソンの福祉国家レジュームについて学ぶ
9	保守主義型福祉レジューム①脱商 品化	大陸型福祉国家レジューム、 保守主義、脱商品化	保守主義の福祉国家レジュームにおける脱商品化について学ぶ
10	保守主義型福祉レジューム②階層 化	大陸型福祉国家レジューム、 保守主義、階層化	脱商品化が高く、階層化も高い欧州大陸型の福祉国家レジュームについて学ぶ
11	社会民主主義型福祉レジューム① 脱商品化	北欧型福祉国家、社会民主主 義、脱商品化	社会民主主義の福祉国家レジュームにおける脱商品化について学ぶ
12	社会民主主義型福祉レジューム② 階層化	北欧型福祉国家、社会民主主 義、階層化	脱商品化が高く、階層化が低い北欧型の福祉レジュームについて学ぶ
13	フィンランド福祉国家の特徴	市場化、予防、包括的地方分 権	スウェーデン等の北欧型福祉国家と比較して見えるフィンランドの特殊性
14	フィンランド福祉国家の形成過程	VALTAVA 改革、1993年改革 (包括補助金制度)	フィンランド型福祉国家を形作る契機となった二つの改革を理解する
15	現在に至るフィンランド福祉国家 の変遷	健康福祉制度改革と地方制度 改革	カイヌー実験、PARAS、ALUK、SOTE、ベーシックインカムなどの各種改革を整理する

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：10時間以上）

レポート課題「福祉国家レジュームを定義し、エスピン・アンデルセンによるその類型化を論じなさい。」(2,000字以上)

- ・ オンデマンド教材、『福祉資本主義の三つの世界』該当箇所をノートテイクしながらしっかり学修のこと
- ・ 上記二つを十分に理解できない場合は、自分でしっかり調べ理解してから課題に取り組むこと
- ・ 対面スクーリング当日持参「オンデマンド課題配布資料を各自印刷したもの」「オンデマンド課題を視聴学修した際のノート」「『福祉資本主義の三つの世界』『フィンランド福祉国家の形成』の該当箇所のコピー（必須）

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	福祉国家について	オンデマンド
2	エスピン・アンデルセンの福祉レジューム論 ～脱商品化指標～	オンデマンド
3	エスピン・アンデルセンの福祉レジューム論 ～階層化指標～	オンデマンド
4	エスピン・アンデルセンの福祉レジューム論 ～福祉国家の三類型～	オンデマンド
5	エスピン・アンデルセンの福祉レジューム論 ～福祉国家レジューム～	オンデマンド
6	フィンランド福祉国家について	オンデマンド
7	自由主義型社会福祉レジューム	対面
8	保守主義型社会福祉レジューム	対面
9	社会民主主義型社会福祉レジューム	対面
10	現在に至るフィンランド福祉国家の変遷	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：10時間）

レポート課題「様々な福祉国家レジュームを理解して日本の制度と比較し、日本の福祉国家レジュームについてのあなたの考えを述べなさい。」(4,000字以上)

- ・ 過去のオンデマンド教材、スクーリング内容をノート等を用いて自分で一度再構築してみることに
- ・ 外国の事例を知ること、日本の社会福祉を相対化してみることに
- ・ 北欧型福祉国家の条件、その特殊性についてしっかり学修したうえで課題にのぞむこと

■評価の方法・基準

- ・ 課題1レポート（25%）、課題2レポート（25%）
- ・ スクーリング（50%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1）山田真知子『フィンランド福祉国家の形成』木鐸社、2006（一部をコピーで配付します）
- ＊2）エスピン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房、2001（一部をコピーで配付します）

2025～	災害福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	萩野 寛雄	

■授業のテーマ

災害福祉の中から、公的セクターによる復興支援に焦点を当て、正義や公正の視点から考える

■授業の目的

- ・本講義は災害福祉を取り扱うが、災害福祉の実践を目的とするものではないので注意のこと
- ・政治学や倫理学の正義や公正の観点から、災害福祉の根源的意義と向かい合えるようになる

■授業の到達目標

- ・公的な災害福祉において不可避な「公正」「公平」「平等」「正義」などの問題を考えられるようになる
- ・復興支援における「補償」「保証」「保障」など、正しい概念定義を基に自分の思考を構築できるようになる
- ・自然災害や人的災害、人的損害や物的損害、正義に適う復興支援の主体は何か、などについて政治学や倫理学の知識を用いながら自分の意見を構築し、言語化できるようになる

■授業の概要

公的セクターによる復興支援では「正当性」が重要となり、公平や平等は根源的で多くの問題を生み出す。本講義ではマイケル・サンデルの「善」の政治哲学を拠り所の一つの可能性として採用し、解説する。

教科書精読とオンライン学習で共通理解を深めて課題1にまとめた上で、対面講義ではグループワークを主に行う。東日本大震災の復興支援を題材にしたグループワークでは、各自の主張を言語化し、意見交換や討論が求められる。このプロセスを経て自分の主張を弁証法的に振り返り、ジンテーゼとして課題2を作成する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	オンライン学習の内容を基に、「あなたの考える正義に適う公的災害福祉支援」をまとめなさい。	【提出期限】 ☐ 対面授業1週間前まで ☒ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	課題1、対面 GW を終えた後の「あなたの考える正義に適う公的災害福祉支援」をまとめなさい。変わった点、変わらない点、それぞれ理由を付して記すこと。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

- ・教科書を熟読し、分からない単語 / 人名や事例については調べて精読すること
- ・その上で、講義動画を学習し、サンデルの論旨を正しく理解すること
- ・サンデルの正義の講義内容を、公的な災害復興支援に汎用するとどうなるかを熟考
- ・今の自分の常識から脱して、柔軟に思考すること

課題2 アドバイス

- ・「教科書の正しい理解」「課題1で書いた内容」「対面講義やGWで学んだこと、気づいたこと」を整理
- ・それらをまとめ、課題1の内容を振り返り、弁証法的な「合」として課題2を作成
- ・課題1と変わった点、変わらない点を整理して著述し、その理由も付すこと

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	ガイダンス (1回目動画)	15回の講義計画、講義概要の説明	・講義の進め方 ・公的支援の正当性
2	正義とは何か? (1章) (1回目動画)	絶対的正義 / 相対的正義	・「正義」の定義 ・正義の多様性
3	功利主義は絶対? (2章) J. ベンサム (2回目動画)	功利主義とは?	・しばしば功利主義を常識と考えられるが… ・最大多数の最大幸福は無条件に正義か?
4	功利主義は絶対? (2章) J.S ミル (2回目動画)	個々の効用は均一に尊いか?	・道徳性は結果に依存する? ・道徳性は結果から独立して尊重されるべき?
5	リパタリアニズム (3章) (3回目動画)	小さな政府 / 大きな政府 新自由主義	・大きな政府と小さな政府 ・福祉国家
6	「私」は「私」のものか? (3章) (3回目動画)	課税	・課税は正義に合うのか ・自由と平等
7	平等こそ正義か? (6章) (4回目動画)	J.Rawls、正義の2原則	・正義の第一原理 ・正義の第二原理
8	不平等は正義に反するか? (7章) (5回目動画)	Affirmative Action	・福祉は平等か ・Rawlsの肯定する格差
9	正義と共通善 (10章) (6回目動画)	政教分離、「善」	・定言命法としての「善」 ・「善」に基づく災害福祉を達成するには?
10	課題1 (レポート課題)	あなたの考える正義に合う公的災害福祉支援 -1	・サンデルの主張をまとめて理解 ・それを災害福祉に当てはめて考察
11	自然災害の復興支援の主体はどこがなるべき? (対面)	おかれた環境による正義の違い	・国家観 ・政治体制
12	被害の補償に差をつけることは正義に合うか? (対面)	人的被害と物的被害の違い	・保障、補償、保証 ・平等は絶対的正義か
13	人的災害の復興支援の主体はどこがなるべき? (対面)	正義に反する主体であっても救済すべきか	・功利主義と正義 ・自然災害と人的災害
14	リスクのアウトソーシングは正義に合うか? (対面)	金で不利益を肩代わりするのは正義に合うか	・自由意思 ・善
15	ふりかえり、課題2 (レポート課題)	あなたの考える正義に合う公的災害福祉支援 -2	・オンライン学習、課題1、対面学修を振り返って、「正反合」として学修をまとめる

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安: 15時間以上)

- ・教科書 (マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』の1、2、3、6、7、10章) を精読
- ・不明な用語や概念を事前に調べておく
- ・公的な災害復興支援において、自分の考える正義について考えておく

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	正しいとは何か、正義とは何か（1章）	オンデマンド
2	功利主義と正義（2章）	オンデマンド
3	リバタリアニズム（3章）	オンデマンド
4	平等は正義か J.Rawls（6章）	オンデマンド
5	不平等は正義に合わないか Affirmative action（7章）	オンデマンド
6	正義と共通善（10章）	オンデマンド
7	グループワーク（自然災害の復興支援の主体はどこになるべきか？）	対面
8	グループワーク（被害の補償に差をつけるのは正義に合うか？）	対面
9	グループワーク（人的災害の復興支援の主体はどこになるべきか？）	対面
10	グループワーク（リスクのアウトソーシングは正義に合うのか？）	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：15時間）

スクーリングの講義内容やグループワークの結果をまとめ、課題2を作成して提出のこと

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（25%）、課題2レポート（25%）
- ・スクーリング（50%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワノンフィクション文庫、2011

2023～	身体機能障害特論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	齋木 しゅう子	

■授業のテーマ

身体機能の理解と身体機能障害による課題発見と研究

■授業の目的

リハビリテーションの理念を理解し、身体機能障害による生活機能の課題・問題を分析・考察する。

■授業の到達目標

- ①リハビリテーションの理念を説明できる。
- ②身体機能と運動について説明できる。
- ③身体機能障害の評価方法とその意義について説明できる。
- ④身体障害を呈する疾患の特徴と生活機能の課題・問題を分析し解説できる。

■授業の概要

運動機能は、移動や様々な日常の中で行われる動作や作業をするのに欠かせない機能ですが、病気やケガ、加齢により運動機能が障害されリハビリテーションの対象となります。医療・福祉サービスを含めて、リハビリテーションは対象者の「生活機能」の向上・維持を目指すことにあります。

この授業では、運動を行うための身体機能を理解し、その機能が破綻した病態・障害像について理解を深めます。身体機能の評価結果は多職種間で共有され、対象者の支援に必要な情報となり、その評価結果の意義や支援への活用について学びます。運動機能障害を呈する代表的な疾患について経過・予後、包括的リハビリテーションの介入から医療・保健・社会福祉の連携について理解を深めます。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	ノーマライゼーション、自立生活運動等からリハビリテーションの理念について解説し、合わせて医学モデルから社会モデルへの変遷についてまとめなさい。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめICFにおける生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性をまとめ、症例に提供できる支援についてまとめます。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

医学的リハビリテーションが、2度にわたる世界大戦によって発展したという歴史やノーマライゼーション、自立生活運動等リハビリテーションに関わる流れを理解してください。そして、国際障害分類や国際生活機能分類の概要をとらえ、身体機能に重きを置いた時代から生活に目を向け対象者を捉える視点に変化した背景を理解してください。

課題2 アドバイス

模擬症例の病態について調査し理解を深めます。症例情報についてICFのどこに入る内容か、検討し身体構造の問題が活動・参加にどう影響しているのか。またそこに、環境や個人の要因がどう関わっているか関連性を捉え、まとめてください。参考文献としてあげた書籍を読み活用してください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	リハビリテーションとは	語源、成立過程	リハビリテーションの意味、歴史について学びます 教科書：A-1 参考図書2) 第1回スクーリング
2	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション、自立生活運動について学びます。 教科書：参考図書2)で確認 第2回スクーリング
3	医療・保健・社会福祉と リハビリテーションの関係	医学的・職業的・社会的・教育的・地域リハビリテーション、地域包括ケアシステム	リハビリテーションの理解。医療と保健・社会福祉との連携について学びます。 教科書：A-2 第3回スクーリング
4	多職種連携 - ①	連携の必要性	連携の必要性と連携が有効に展開できるための要因について理解を深めます。 教科書：参考図書2)第3章 第3回スクーリング
5	多職種連携 - ②	専門職の理解	チームを構成する職種の専門性について理解します。 教科書：A8-13 第3回スクーリング
6	障害モデル(医学モデルと社会モデル)	ICIDH(医学モデル)とICF(社会モデル)	疾病構造と障害、ICIDHとICFの違いについて理解してください。 教科書：A-15 参考図書2)：第2章2-2 第2回スクーリング
7	障害受容	障害受容の過程	障害受容について学びます。 参考図書2)：第2章2-2
8	運動生理学	呼吸・循環・代謝	身体を動かすために必要な身体機能(呼吸、心臓、エネルギー生成)について理解します。 参考図書2)第4章 第4回スクーリング
9	廃用性症候群	拘縮、筋力低下	廃用によって生じる拘縮・筋力低下について理解します。 教科書：B1-2 第5回・6回スクーリング
10	運動麻痺、協調運動障害	麻痺、協調性	運動麻痺の状態、強調運動障害による病態について理解します。 教科書：B3、11 第5回スクーリング
11	評価 - ①	機能障害	機能障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-15 第7回スクーリング
12	評価 - ②	能力障害	能力障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-16 第7回スクーリング
13	脳血管障害の障害像	疾患の特性、二次障害	急性期～維持期へと各病期における障害像を理解する 教科書：C-1-2 第6回・8回スクーリング
14	脳性麻痺、重症心身障害者	疾患の特性、二次障害	脳性麻痺、重症心身障害者の障害像を理解します。 教科書：C-13 第6回・9回スクーリング
15	高齢者の特性	フレイル、サルコペニア	予防の視点から老年症候群を理解します。 教科書：B-12 第10回スクーリング

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題（学修時間目安：6 時間以上）

- ・「PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論」あるいは参考図書としてあげた「リハビリテーション概論のいろは」を利用し、スクーリングの授業内容について確認してください。また、リハビリ専門職の業務についてイメージできない場合は日本理学療法士協会の URL https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/movie/#a2や、各専門職の団体が開設している HP、疾患については YouTube 等活用し障害像を理解してください。
- ・スクーリング初日の 1 週間前までに、事務室へ提出してください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	リハビリテーションの理念、歴史について学びます	リモート or 対面
2	リハビリテーションの種類 障害のとらえ方：ICIDH と ICF について学び模擬症例を通し障害との関連性を検討します	リモート or 対面
3	地域包括ケアと多職種連携についてチームの構成のあり方を検討します	リモート or 対面
4	運動生理学：呼吸・循環機能・エネルギー代謝を理解し障害を有することでの問題・課題を検討します	リモート or 対面
5	関節機能障害、筋力低下、運動麻痺、協調運動障害の障害像を学びます	リモート or 対面
6	脳血管障害、骨折、パーキンソン症候群、脳性麻痺・重症心身障害者の実際を学びます	リモート or 対面
7	ADL、QOL 評価、運動能力の評価に関する評価の目的、結果の意味について各疾患の特性から評価結果の意義を学びます。	対面
8	脳血管障害の模擬症例の情報から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面
9	脳性麻痺・重症心身障害者の特性と模擬症例の情報から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面
10	高齢者の特性から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：6 時間）

- ・疾患と障害を理解し、活動や参加におよぼす影響と、介入できる支援等についてまとめます。また、提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめ ICF における生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性から説明する。

■評価の方法・基準

- ・課題 1 レポート（20%）、課題 2 レポート（20%）
- ・スクーリング（参加度40%、発表20%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1) 椿原 彰夫編著『PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第4版』診断と治療社、2023年
- 2) 川手信行『リハビリテーション概論のいろは』南江堂、2022年
- 3) 澤村誠志監修『社会リハビリテーション論 第2版』三輪書店、2007年
- 4) 細田多穂監修『理学療法概論テキスト 改訂第3版』南江堂、2019年

【BPシラバス】 特別研究講義Ⅰ (公開講座)	授業形態		時間数	単位数
	SR		12時間	1単位
	担当教員	大島 蔵・竹之内 章代・芳賀 恭司・ 庄子 清典・野田 毅・田中 伸弥・小渡 加依		

■受講する時の留意点（注意事項）

- ※所属する社会福祉法人があり、福祉現場での実践の経験があること（経験がないと演習や実施報告の課題が作成できない恐れがあるため）
- ※現場でのプランを検討したり、実施したりすることが課題として求められているため、それらが可能な立場にあること

■授業のテーマ

地域の福祉課題解決に貢献する福祉等施設の公益活動～人も資金も集まり社会に役立つ「打ち手」の創出と展開

■授業の目的

1. 社会福祉等事業の経営者や公益事業担当者、法人におけるソーシャルワーカー等職員が、有効な地域公益事業の実践理論と方法を共有することができる。
2. 自らが所属する法人等における公益的な取組を見直し、より有効な地域貢献事業を計画し、法人内での共有から実行、さらにその効果や成果の検証ができる。

■到達目標（学修成果）

1. 社会福祉事業において、公益事業の必要性和有効な理論について考察を深め、具体的な方策を提案することができる。
2. 社会福祉法人に求められる使命を理解し、法人の運営や人材育成等について、ソーシャルワーク理論や実践から考察することができる。

■授業の概要

2016年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえた「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設された。さらに、2020年の改正では地域共生社会の実現を目指した包括的支援体制の構築が謳われている。そこでこの講義では、社会福祉法人に求められる「地域に根ざした公的事业」実施にあたって必要となる理論と好事例を講義から、さらにワークショップを通じて具体的な実践方法を学ぶ。これらの実践と学びが、法人での人材確保や経営の安定、地域貢献につながることを実感できる講義となることを期待する。

■授業の進め方と方法

この講義は、必要に応じて「オンデマンド」「オンライン」「対面」あるいは「オンライン＋対面」など、授業形態の工夫をしながら進めていく。講義の構成としては、講義を通じて「実践理論」や「好事例」から学び、さらにワークショップ形式による「事業計画の立案」、インターバルにおいて「事業計画の実施とその成果」についての報告を実施する。

■成績評価の方法と基準

各回の授業での成果物30%、演習等への参加度30%、最終レポート40%

■課題へのフィードバック

課題については、授業中にフィードバックをします。

■テキスト

講師作成資料を配付

■授業計画 ※宮城県社会福祉法人経営者協議会等との連携（同協議会等と協議を重ねて授業内容を編成）

第1回～第8回は2025年8月の4日間に集中講義（後日ご案内）、

第9回・第10回は同年12月の1日の集中講義（後日ご案内）

	テーマ	内 容
第1回	オリエンテーション（庄子・野田・田中・竹之内） 総論1 社会福祉法人における公益事業の取り組みについて（法的根拠や背景、法人における考え方・方針と事業展開）	この講義の進め方についての確認を行う。 地域における公益的な取組が実施される背景と社会的意義・役割、現在の取組み状況を共有する。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第2回	総論2（竹之内・大島） 法人をとりまく地域課題の分析と抽出、課題解決に有効なプログラム開発と評価の方法	社会福祉法人等が取り組む有効な地域公益事業の実践理論を学ぶ。ニーズ把握から打ち手の創出、計画の策定、モニタリングや検証等の方法論について学ぶ。 ※実務家教員による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第3回	実践事例報告1（野田・小渡） 社会福祉法人における公益事業の取組み	社福）東北福祉会の取組み ※実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等からの事例報告等による授業及び企業等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第4回	実践事例から何を学ぶか1（大島・竹之内） 「プログラム開発と評価」の視点から実践事例の分析・検討と共有①	「プログラム開発と評価」の視点から実践事例報告に対する振り返りと、参加者の各自の実践との関連性の検討と共有を行う。 ※実務家教員による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第5回	実践事例報告2（田中） 社会福祉法人における公益事業取組み	社福）ライフの学校の取組み ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第6回	実践事例から何を学ぶか2（大島・竹之内） 「プログラム開発と評価」の視点から実践事例の分析・検討と共有②	「プログラム開発と評価」の視点から実践事例報告に対する振り返りと、参加者の各自の実践との関連性の検討と共有を行う。 ※実務家教員による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第7回	演習1（竹之内・大島・野田・田中・芳賀） 参加者の各自実践の「打ち手」の開発・創出、事業実施計画の策定	これまでの講座を踏まえ、各自組織における公益的取組みについて分析し、見直しと計画の策定を行う。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）
第8回	演習2（竹之内・大島・野田・田中・芳賀） 開発・創出した「打ち手」と事業実施計画の報告・全体共有	各自組織における「打ち手」と実施計画を報告し、ディスカッションを行う。講座全体を振り返り、今後の課題とあり方について全体共有する。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）

	テーマ	内 容
第 9 回	演習 1（竹之内・大島・野田・田中・芳賀） フォローアップ・実践報告：各自組織における実施状況の報告	実施計画に基づく各自組織の実践状況を報告し合い、意見交換を行う。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）
第10回	演習 2（竹之内・大島・野田・田中・芳賀） 講評（フィードバック）「プログラム開発と評価」の視点から各自組織の実践を総括	各自組織の実践状況に対して、意見交換の結果を踏まえてフィードバックし、講座全体を振り返る。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）

■最終レポート課題

8月の集中講義・演習において作成した「実施企画シート」に基づいて9～11月に実践現場での取組みを行い、その実施状況を「フォローアップ課題シート」にまとめて提出する。この実施状況に基づいて、「実施企画シート」の修正案を提出すること。また、講義全体を通じて、具体的にどのような学びをし、その学びを実践活動にどのように活かすかについて、レポートにまとめる。

■教員への質問・相談

授業終了後もメール等で受け付ける。

■備考

第9回・第10回のフォローアップ講座（2025年12月）では、企画案（「実施企画シート」）に基づく実施状況を「フォローアップ課題シート」にまとめると共に、8月に作成した「企画シート」の修正案を作成する。

特別研究講義Ⅱ (TFU 実学臨床研究セミナー)	単位数	時間数	履修方法	配当学年
	2単位	22.5時間	SR	1・2年
	担当教員	単位認定者 総合福祉学研究科長		

■授業のテーマ

これまでの「実学臨床研究セミナー」からは、包摂（インクルーシブ）社会をつくるためには、社会的排除を生み出し、「包摂」の妨げとなる「格差」に対する実践が必要となることに気づかされた。こんにちの日本社会では、地域、収入、情報などの格差や、性別や障害などへの差別や偏見から、体験や経験の違いが生じている。同じスタートラインに立つこと、言い換えれば同じ人間として包摂される社会から排除されるのは、格差やそれが固定化した階層があるからだと考えられる。人の尊厳を守り、社会正義を実現するためには、これらの格差や階層への働きかけが必要となるだろう。

今年度のセミナーでは、社会福祉、保健・医療、教育等の実践家と当事者が、格差の存在に気づき、その対応に協働して取り組む実践を、年間のテーマとして展開し、そこから研究的実践者として、実践研究者として留意すべき視点について理解を深めることをこの講義のテーマとする。

■授業の目的

- ・ 格差、階層の現状を把握し、その構造を理解する。
- ・ そこへ向けた各分野からの取り組みを学ぶ。

■授業の到達目標

- ・ 現代社会の格差、階層の構造を説明することができる。
- ・ 格差、階層への各分野からの取り組みを理解し、ウェルビーイングを実現する包摂社会をつくるための方法を具体的にイメージすることができる。

■授業の概要

格差、階層問題の現状やその課題を解決するためおこなわれている様々な分野での取り組みを、月1回開催される「TFU 実学臨床研究セミナー」で、各分野の講師がリアルタイムに展開するとともに、計3回の対面、オンラインによる授業を実施し、受講の準備、確認、まとめを行い、現代社会の格差、階層から生じる課題とその解決方法の理解を進め、実学臨床研究の視点、視座などについても確認する。

■レポート課題

課題 1 (事後課題)	格差、階層の構造を説明し、そこへの取り組みについて、セミナーから学んだことをまとめてください。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☐ 受講年度の最終レポート受付日まで ☒ その他 (12コマめ受講後提出可、提出期限1月末日必着。)
----------------	---	---

■スクーリング授業計画（予定）

（「TFU 実学臨床研究セミナー」のテーマは仮、予定が変更される場合もある）

下記15回の授業のうち【オリエンテーション】【これまでの振り返り】【まとめ】の3回以外は、「TFU 実学臨床研究セミナー（全12回）」を受講します。開催日はTFU 実学臨床研究セミナー実行委員会の指定する日程での受講が必要となります。※4月初旬に送信するメールに沿ってセミナーを要申込必要。

	授業の内容	授業の方法
1	【オリエンテーション】 セミナーを受講するにあたって学修目標の設定などの準備をする	対面およびオンライン、あるいはオンデマンド教材による授業
2	「TFU 実学臨床研究セミナー」第1回 【総論とオリエンテーション】格差問題に挑む「支援・サービスギャップ」への実践的アプローチの可能性～精神保健福祉実践の経験から～	対面、オンライン、オンデマンド
3	「TFU 実学臨床研究セミナー」第2回 人口減少地域における地域福祉実践	〃
4	「TFU 実学臨床研究セミナー」第3回 社会的支援から取り残された中高生世代の子どもに対する福祉的支援	〃
5	「TFU 実学臨床研究セミナー」第4回 生活困窮世帯の子どもへの体験格差・学習格差へのアプローチ	〃
6	「TFU 実学臨床研究セミナー」第5回 実践研究の「種」①現場（関連法人や協定法人）での「実践上の問い（種）」と研究の視点	〃
7	【これまでの振り返り】 これまで5回のセミナーを振り返りまとめを行い、6回以降のセミナーでの学修目標を考える	対面、オンライン
8	「TFU 実学臨床研究セミナー」第6回 「女性」へ対する社会福祉実践	〃
9	「TFU 実学臨床研究セミナー」第7回 【職能団体とのシンポジウム】格差問題への福祉実践からのアプローチ	〃
10	「TFU 実学臨床研究セミナー」第8回 不登校支援、特別支援教育実践の現状	〃
11	「TFU 実学臨床研究セミナー」第9回 実践研究の「種」②現場（関連法人や協定法人）での「実践上の問い（種）」と研究の視点	〃
12	「TFU 実学臨床研究セミナー」第10回 精神科医療における強制性の格差とそれへの対応	〃
13	「TFU 実学臨床研究セミナー」第11回 希望する在宅療養継続を実現する訪問看護サービス	〃
14	「TFU 実学臨床研究セミナー」第12回 【総括シンポ】格差問題への福祉実践からのアプローチ	〃
15	【まとめ】 セミナー全体を振り返り、目標の達成状況を整理する	対面、オンライン

■評価の方法・基準

- ・「TFU 実学臨床研究セミナー」への出席と各回の課題の提出（5%×12）
- ・事後課題レポート（40%）

■参考文献

各担当講師作成の資料等